

令和6年3月25日時点

熊谷スマートシティ トータルブランディング方針 Ver.2.2

熊谷市が行うスマートシティ政策の
ブランドアイデンティティの統一に向けて

目次

1. 熊谷スマートシティのブランドアイデンティティ、デザインルールと 政策企画方針（コンセプト）について	p 3
2. 熊谷スマートシティの政策の構造（宣言、実行計画との関係等）	p 4
3. デザインルールの構成	p 5
【1】 やさしい未来発見に向けた3つの好循環	p 6
【2】 ビジュアルの統一について	p 12
【3】 スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及	p 18
【4】 熊谷スマートシティにおける「暑い」に類する表現の使い方について	p 20
4. 政策企画方針（コンセプト）の構成	p 21
【1】 熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素	p 22
【2】 DXアイデア・事業創造の流れ	p 27
【3】 ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）	p 29
【4】 コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用	p 33
参考資料	p 36

1. 熊谷スマートシティのブランドアイデンティティ、デザインルールと政策企画方針（コンセプト）について

○熊谷スマートシティはスマートシティ宣言（令和5年7月）に沿って持続的な価値（ブランド）を確保するため、ビジュアル等を含むデザインルールと政策企画方針（コンセプト）の統合的な提示に取り組めます。これにより、市民・来訪者が利便性の高いシステムになじみやすい状況を目指すとともに、各システムの関係者が、スマートシティの全体像を思い浮かべつつ、開発・運用改善等に取り組める環境づくりを目指します。

○デザインの語源は「設計」であると言われており（注）、デザインルールに沿ってビジュアルの加工、情報発信等に関する専門性が発揮されることと、一定の企画方針（コンセプト）に沿って政策が企画されることは一体的であるべきと考えられます。ビジュアル等を含むデザインの提案とコンセプトに沿って企画を立案する政策担当者の応酬等のプロセスが適切に行われることで、市民の生活を支えていく、熊谷スマートシティの価値（ブランド）が持続的となることを意識して業務に取り組めます。

具体的には、ビジュアル等の加工、情報発信に関する専門性を有する関係者などに常に適切な情報提供を行いつつ、政策担当者同士・関係者同士が広い視野から、関連する政策を含めた全体像の構想・設計に取り組めるよう、ネットワークの形成、スケジュール確保に努めます。

○なお、デザインルールと政策企画方針（コンセプト）は、その時点での解に過ぎず、市民の多様性、変わりゆく地域社会に向けて常に変わり続ける必要があるとの認識の下で、新しい知見や、市民・地域社会の変化へ対応した生きたデザインルール、政策企画方針（コンセプト）のあり方を考え続けます。

（注）デザインという言葉の語源はラテン語の「Designare」にあるといわれています。Designareは「計画を記号に表す」つまり図面に書き表すという意味であったといわれています。これを踏まえると、当初デザインという言葉は「設計」という意味で用いられていたことが想像できます。（出典：公益財団法人日本デザイン振興会Webサイトより）

2. 熊谷スマートシティ政策の構造（宣言、実行計画との関係等）

○スマートシティ宣言（令和5年）に示された理念に沿って、スマートシティ関連政策の検討・実装に取り組むために、本「熊谷スマートシティトータルブランディング方針」（以下「本方針」）を設定します。

○本方針は、ビジュアル等を含むデザインルールと政策企画方針（コンセプト）から構成されます。ルール、コンセプトの一部がガイドライン等として切り出されている場合には、その関係性を本方針に示すものとします。

○また、本方針に沿って検討、実装に向かう具体の計画については、「熊谷スマートシティ実行計画」（以下「実行計画」）に記載するものとします。

○本方針（ルール、コンセプト）及び関係ガイドライン等は市民・来訪者の共感や具体の参画を得て熊谷スマートシティの持続的な価値（ブランド）につなげる目的のため公表します。

- ・ SSID（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）ガイドライン
→ サービスに共通する仕様等（の意図）への共感を目指す。
- ・ 熊谷スマートシティスキルカタログ
→ サービスの開発や運用を支えるスタッフ・組織の姿勢や意識等への共感を目指す。
- ・ デジタルデザインルートマップ（検討中）
→ 社会・地域が成長・変化していくストーリーへの共感及び具体の参画を目指す。
- ・ 市民参加型のWebGISの活用の手引き
→ デジタルツールを共有してのまちづくり協働への共感及び具体の参画を目指す。

3. デザインルールの構成

【1】 やさしい未来発見に向けた3つの好循環

- | | | |
|-------------|---|------------------|
| 持続可能なエコシステム | → | 地域づくりの未来発見 |
| 成長サイクル | → | 生活・ウェルビーイングの未来発見 |
| データ活用サイクル | → | 人材育成・データ活用の未来発見 |

【2】 ビジュアルの統一について

(関係ガイドライン等)

SSID (スマートフォン サービス インターフェイス デザイン) ガイドライン

【3】 スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及

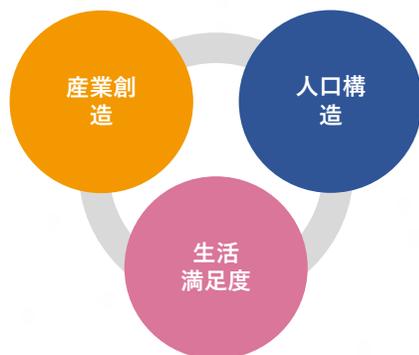
(関連ガイドライン等) 熊谷スマートシティスキルカタログ

【4】 「暑い」に類する表現の使い方について

【デザイン1】 やさしい未来発見に向けた3つの好循環

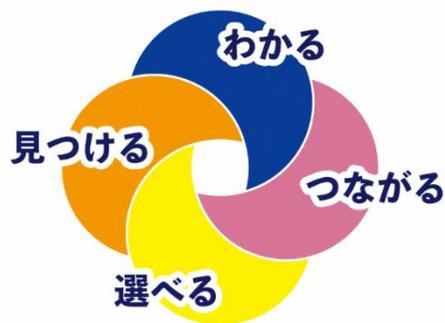
熊谷市では持続性のある地域を目指し、スマートシティの政策を実施。
熊谷スマートシティは様々な人が関わりながら、以下3つのサイクルを回すこと
によって、地域づくりや、生活・ウェルビーイング、人材育成・データ活用の好循環を
つくっていく。

熊谷市の目指す
持続可能な地域をつくるエコシステム



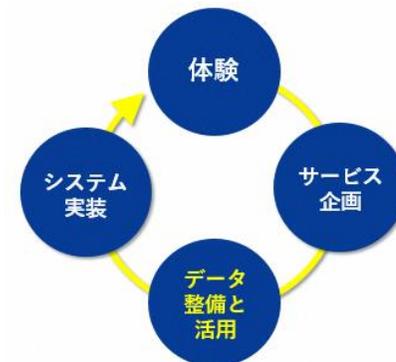
(地域づくりの未来発見)

やさしい未来発見都市の
成長サイクル



(生活・ウェルビーイングの未来発見)

熊谷市の目指す
データ活用サイクル

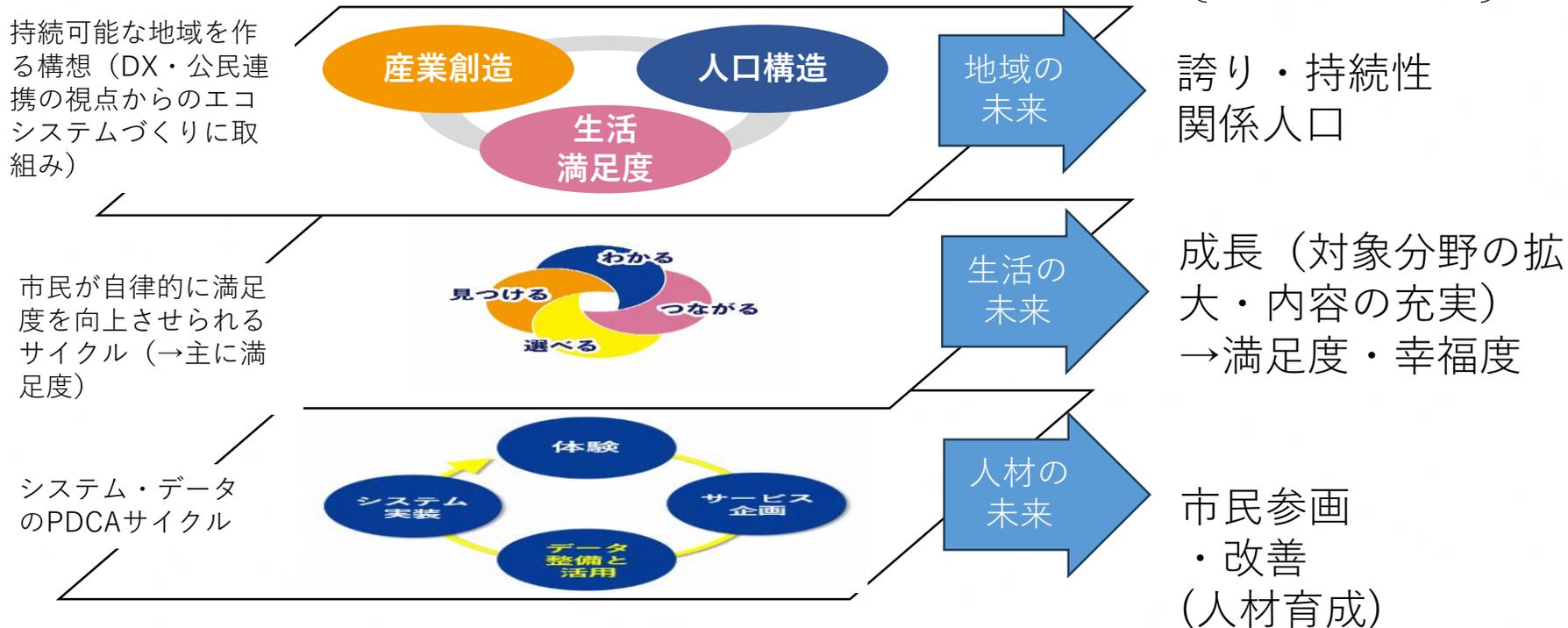


(人材育成・データ活用の未来発見)

■ 3つの好循環の関係性

「幸福度の高いまち」の持続のためには以下の「地域の未来」「生活の未来」「人材の未来」の3つのレイヤの好循環が必要

〔 目指す内容のキーワード 〕



熊谷市の目指す持続可能な地域をつくるエコシステム

(地域づくりの未来発見)

産業DXや公民連携により、産業を創造し、生活満足度を高め、人口構造を変えていくシステム

システムから得られるデータの活用や、事業者、大学との連携などの公民連携の取り組みなどから新たな産業の創造を目指す。

また、データを分析し市民ニーズに即した施策を行うことで生活満足度を高め、関係人口を含めた人口増加、転出抑制を図ることで、市民はもとより市外のファンも誇りに思える持続可能な地域づくりを行う。



新たな事業が生まれ、生活の満足度が上がり、人口が増える
『**地域の未来**』をつくる

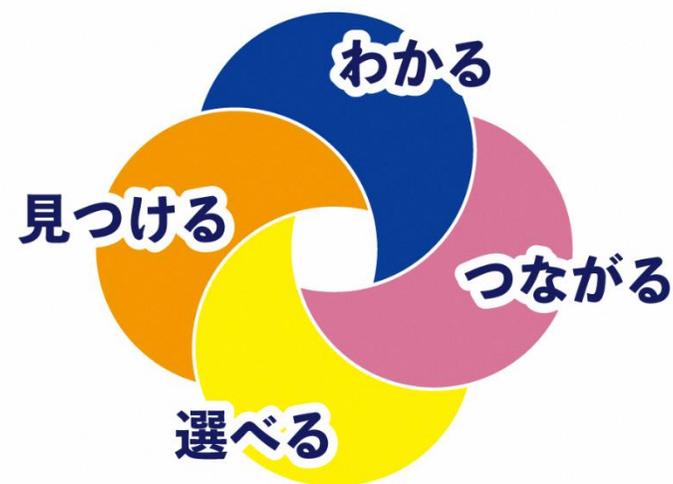
やさしい未来発見都市の成長サイクル

(生活・ウェルビーイングの未来発見)

熊谷スマートシティの仕組みにより、
新たな使い方、自分なりの楽しみ、
自律的な幸せを見つけるための循環

「わかる」「つながる」「選べる」「見つける」という循環をつくることでの「発見」にから始まる満足度の向上を念頭に、市民サービス全般の向上に取り組む。

まちづくりに参画し、地域への愛着を育むことや、自己実現の機会を通して、個人の幸せを追い求める循環する環境をつくり、やさしい未来につなげることを目指す。



『幸福度の高いまち』へ

熊谷市の目指すデータ活用サイクル

(人材育成・データ活用の未来発見)

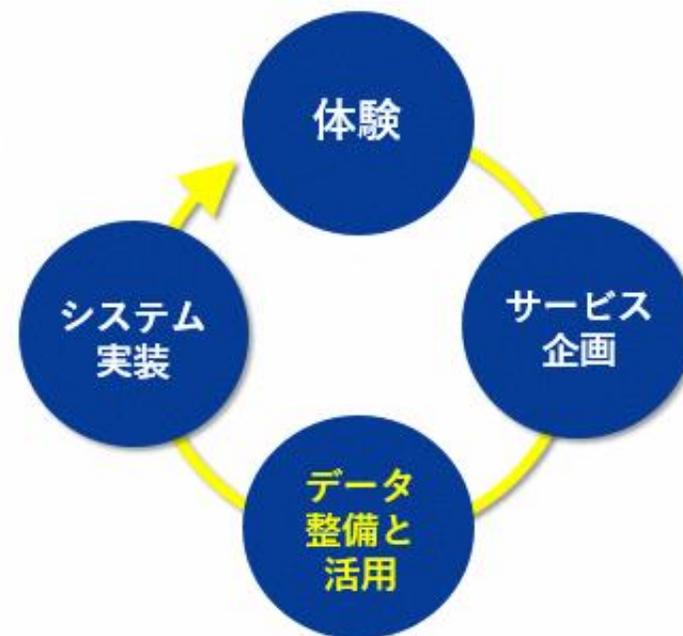
システムとデータによる好循環

システムから得られるデータを蓄積・分析・更新し、次の施策に生かすことで「持続可能なまち」を実現します。そのため、データ分析スキルを有する人材の育成やWebツールを活用した市民との共創等に取り組みます。

市民目線のデータ整備（市民が活用しやすいデータ整備）

コミュニティバスの位置情報など行政が提供できるデータはもちろん、市民と協働で作るバリアフリー情報などのデータを整備することで、データ活用サイクルを回していきます。

また、これらのデータは地元大学の研究や新たなサービスに活かします。



新たな発見やサービス、事業が生まれる
『データの循環』をつくる

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連



- 熊谷スマートシティとしてのキーワード『やさしい未来発見都市』『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』は、スマートシティをプロモーションしていくうえでのキーワードとして設定。
- 『発見』のワードは、熊谷市がスマートシティ政策によってつくる循環の実現によって得られるものであるため、スマートシティ政策における統一的な概念として設定。

- 宣言では「人の力」を宣言文に含むことから、『えらべる』『作りだせる』『つながる』『わかりあう』というワードを使用した。熊谷スマートシティにおいては、シンポジウムで使用した、『わかる』『つながる』『選べる』『見つける』のワードをプロモーションのメインとして使用。
- シンポジウムで使用したワードと、その循環を表現したロゴを作成し、熊谷スマートシティのロゴとしてプロモーションに活用。



【色について】

- わかる : スマートシティの入口、クマぶらブルー
- つながる : ハート、人とのつながり、クマポピンク
- 選べる : 使い方を選べる、クマPAYイエロー
- 見つける : 新しいデータやサービスを見つける、熊谷市シンボルカラーオレンジ (ひばり色)

参考 40

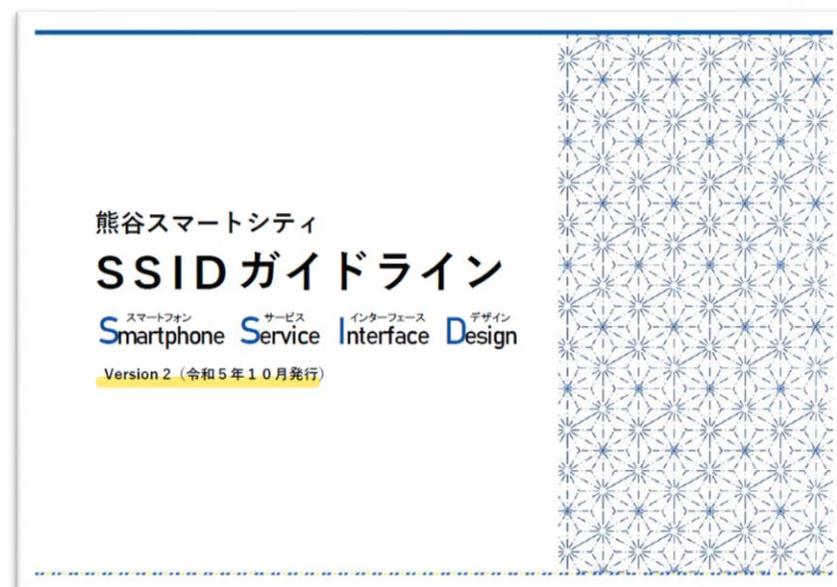
参考 41

【デザイン2】 ビジュアルの統一について

SSIDガイドラインの策定（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）

ユーザーのタッチポイントとなるスマートフォンで、熊谷スマートシティの「ブランドとしての統一感」をつくるため、SSIDガイドラインを策定した。ガイドラインには以下の内容が掲載されている。

- キャラクター指定（スクマムの使用）
- 色彩指定
- 基準となるスマートフォン、ボタンサイズ等システムの仕様



SSIDはブランドとしての統一感の他、アクセシビリティに配慮した「見やすいデザイン」にも言及している。

■ スクمامデザイン等の活用について

スクمام（熊谷スマートシティオリジナルデザイン）

以下のとおり、熊谷スマートシティ及び関連事業のキービジュアルに、スクمامを使用している。これらのデザインはスマートシティとしてのブランドを損なうことのないよう取り扱いに注意しながらも、プロモーションとして幅広く活用していく。

熊谷スマートシティのシンボルロゴ

「やさしい未来発見都市の成長サイクル」を表現したイメージをロゴとして、熊谷スマートシティのシンボルロゴとして使用する。



シンボルロゴ×キーワード

シンボルロゴを抱えるスクمامと、熊谷スマートシティのキーワードである「やさしい未来発見都市」合わせたビジュアル。スマートシティ宣言で使用する。



サービスおよび事業ロゴ

「クマぶら」と「地域通貨」に関連するロゴ。これらのロゴはスクمامのデザイナーにデザインを発注し、事業全体ブランディングについてアドバイスをもらいながら進める。



■ 熊谷スマートシティ関連の印刷物への表示の統一

以下のとおり、熊谷スマートシティ関連の印刷物への表示を統一的に入れ、市民等への浸透を図る。

1 目的

スマートシティプロモーション及びブランディングの一環として、スマートシティ関連の印刷物や資料等に統一的にスマートシティのデザインを入れることにより、市民等の目に触れる機会を増やし、市のスマートシティの認知度を高め、取り組みへの理解を深めていただく。

2 デザイン

パターン1を推奨するが、スペース等の都合により、パターン2も可。大きさは任意とする。

チラシへの掲載例



パターン1 (推奨)



熊谷市はスマートシティの取り組みを進めています。
この事業はスマートシティ関連事業です。

パターン2



■ 「クマぶら」のデザインについて

全てのサービスの入口である「クマぶら」においても、熊谷スマートシティのブランディングを意識し、統一的な考え方でワードを設定。

■ 新たに設定された「クマぶら」のキャッチコピーとその意味について

キャッチコピー

クマガヤ知るなら「クマぶら」

コンセプト

まちの情報を「知る」ことはもちろん、それらのサービスや事業を通して、自分自身の興味関心も知ることができる。

全てのサービスの入口である「クマぶら」を通して、新たな使い方、自分なりの楽しみ、自律的な幸せを発見する。

そのうえで、「クマぶら」のリニューアルにおいては、「使いたいメニューを探しやすくする」ことを第一として、新たに以下3つのキーワードをリッチメニューのタブとして設定した。

知る

使う

楽しむ

参考 4 2



■ 熊谷スマートシティ関連施策の範囲について（1）

（※）スマートシティ政策を実施する上での環境整備として実施しているデジタルデバイス解消のための事業（公共施設のWi-Fi整備や高齢者スマホ貸与事業、スマホ使い方講座など）もスマート政策の一部として、スマートシティのプロモーションに含める。



- クマぶら
- ・スマートシティの入口
 - ・地域通貨（クマPAY、クマポ）
 - ・スタンプラリー事業
 - ・熊谷名物、ショップなど



- クマPAY
- ・市内加盟店でお買い物に使える地域電子マネー



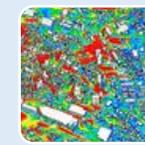
- クマポ
- ・共助等の感謝の気持ちを贈り合えるコミュニティポイント



- コミュニティバスのスマホ回数券
- ・地域電子通貨で回数券の購入
 - ・遅延情報の配信、
 - ・乗車データの取得



- デジタルデバイドの解消
- ・公共施設のWi-Fi設置事業
 - ・スマホ貸与事業
 - ・スマホ使い方講座



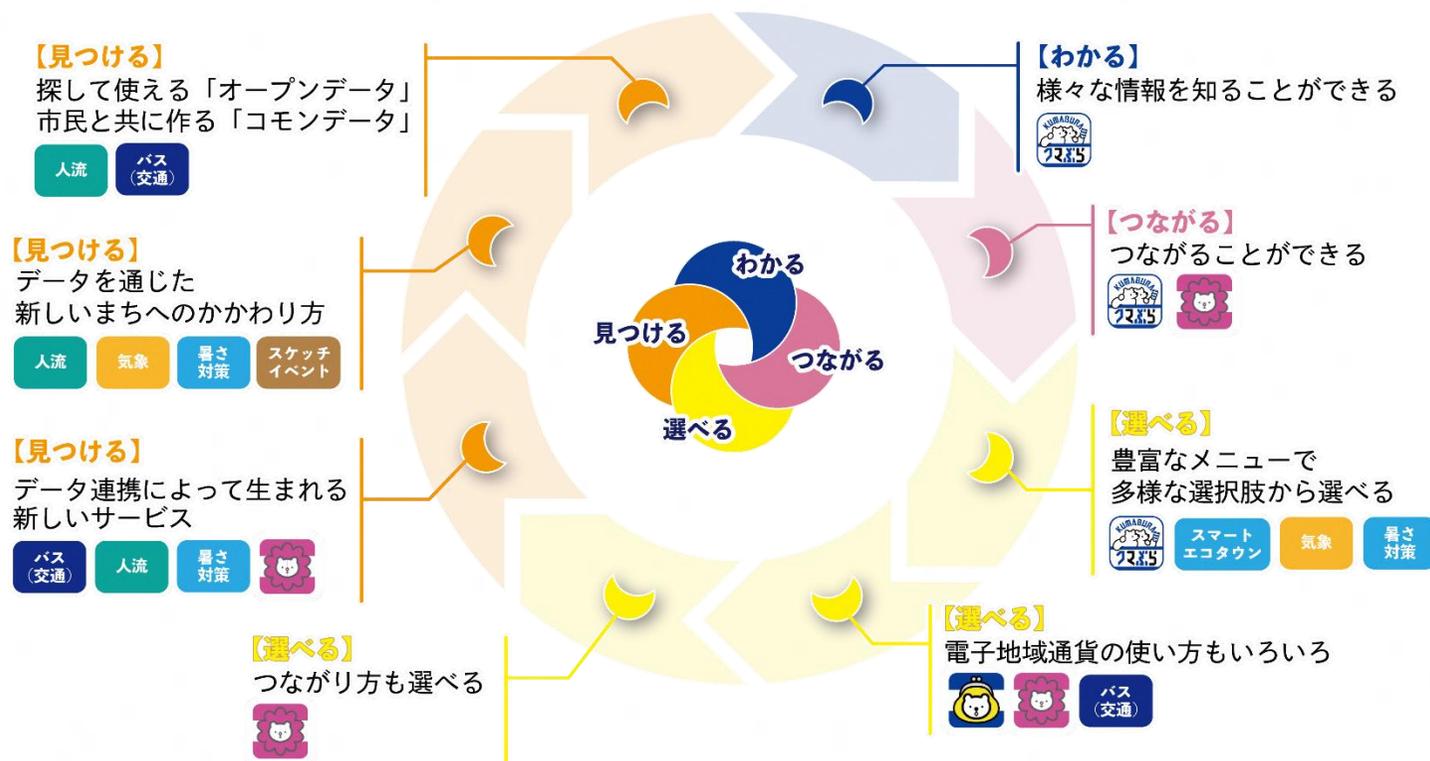
- 暑さ対策デジタル連携
- ・暑さ対策スマートパッケージ
 - ・スマートエコタウン



- データ活用まちづくり
- ・人流データ（交通手段及び人の動き）のデータの分析
 - ・ビッグデータの活用

■ 熊谷スマートシティ関連施策の範囲について（2）

「やさしい未来発見都市の成長サイクル」の循環図に配置されるそれぞれの事業を「スマートシティ施策」として位置づけ、本方針を適用するものとする。



※ 上記事業の他、スマートシティ政策を実施する上での環境整備として実施しているデジタルデバイド解消のための事業（公共施設のWi-Fi整備や高齢者スマホ貸与事業、スマホ講座など）もスマート政策の一部として、スマートシティのプロモーションに含めることとする。

【デザイン3】スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及

○システム実装委員会（熊谷市DX推進本部スマートシティ戦略部会）において、スマートシティの推進に必要なITスキル等を、データ活用の実装等に向けたプロセスも念頭に「熊谷スマートシティスキルカタログ」として整理。

・その他、必要に応じて、随時、適切な会議体において、自治体DXに必要なITスキル等を定義する。

○複数の部署で役立てることが可能な（ポータブルな）スキルとすべく、各職員が職位に応じた習得目標を上位職に相談し、必要な業務経験を積める環境を確保する。

【注】「ITスキル」（熊谷市役所における定義）

・一般的な業務の基礎となるITリテラシーや汎用的なスケジュールの自己管理などの基礎的なノウハウとは別途、スマートシティに関係するシステムやデータの設計・実装・運用等に関わる上での基本的な考え方をスキルとして整理する。今後の自治体DX・スマートシティの取組みに際して各課で必要となるため、計画的に経験・習得することが望ましいノウハウ等を指す。

参考43

■ 持続サイクルの上で必要な9つのスキル（随時更新）



- ① スマートシティにおいて【目指すべき価値の調整・共有】を行うスキル
- ② 必要な【オープンガバナンスの場を設定】し、得られた【アイデアやどのような役割が必要かについての整理】を行うスキル
- ③ 既存のシステムやデータを見渡し、【どうすれば実現できるかを考える】スキル
- ④ 実現のための仮説を、【（必要なベンダー・有識者等の協力を得て）実行可能な内容に落とし込む】スキル
- ⑤ 【関係者と業務全体の要件・リスクを定義】し、【期間内に業務の成果が得られるようにマネジメント】するスキル
- ⑥ 【個別のタスクの期限と要件の兼ね合いを管理】し、同時並行的に業務手法を改善したり、段取り管理の中間目標を設定するスキル
- ⑦ 政策のPDCA、EBPM等に【どのようなデータが必要かを考え、取得方法や分析・活用手法を整理】するスキル（市役所・大学等の政策企画関係者向けを想定）
- ⑧ 【データを用い、まちづくり等の課題をステークホルダーに伝えて理解を促す】と共に、【将来像や解決策の立案にステークホルダーを巻き込んで公民連携のまちづくりを促進】するスキル
- ⑨ 民間も含めた熊谷スマートシティの好循環のために【地域（市役所内を含む）に必要なDX人材像・スキルを整理し育成手法を検討】するスキル

【デザイン4】熊谷スマートシティにおける「暑い」に類する表現の使い方について

【当面の方針】

「日本一アツい」について、以下の要件を満たすPRについて、限定的に活用。

[要件]

- ・短期（おおよそ3年以内）での目的・目標設定を持つこと。また、取組みの段取り等が具体的に設定されていること。
- ・当該表現を情報発信に用いることにより、どのような対象に募集等の情報が伝わりやすくなることを目指すべきかやそのメリットが、具体的に説明可能であること。

(※) その他の場合には、以下のいずれかの使用を想定。

『暑さ』で知られる熊谷市

『暑い』熊谷市

『暑さ対策日本一』熊谷市

参考44

4. 政策企画方針（コンセプト）の構成

【1】熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素

- ① コミュニティ
- ② 持続性
- ③ （まち、ひとの）ストーリー
 - ・ストーリー1：スマートクールシティへの市民参画
 - ・ストーリー2：データ活用によるまちなかウェルカム、コンパクト×スマートシティの取組み

【2】DXアイデア・事業創造の流れ（関係ガイドライン等） （仮）デジタルデザインルートマップ（検討中）

【3】ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）

【4】コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用

（関係ガイドライン等）
（熊谷スマートシティ版）市民参加型のWebGISの活用に向けた取組みの手引き

参考45

【コンセプト1】熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素

【1】以下3点を重視しつつ、各種の仕組みが好循環を生むエコシステムの効率的な構築を目指す。

- ・コミュニティ
- ・持続性
- ・（まち・ひとの）ストーリー

【2】上記観点を反映した基礎的な構成要素

○コミュニティポイントの活用

（※）他都市の同種の非換金ポイントの多くは商業振興を目的とするが、熊谷市では市民同士の「わたす」機能によるコミュニティ活性化を重視

○市民・来訪者の共感を目指すブランディング

- ～スマートシティ宣言（デジタルと人の力で社会を前に進める）
- ～アクセシビリティとデザイン性の両立を目指すデザインルール

○【ストーリー1】スマートクールシティへの市民参画

○【ストーリー2】データ活用によるまちなかウェルカム、コンパクト×スマートシティの取組み

- ～人流等のデータ活用による市民・来訪者・店舗等のWin-Winの仕組み構築
- ～産学官の連携したデジタル・デザインのルート設定
- ～参画を支えるツール（WebGIS・気象シミュレーション）
- ～スマートシティのための独自のスキル設定と人材育成

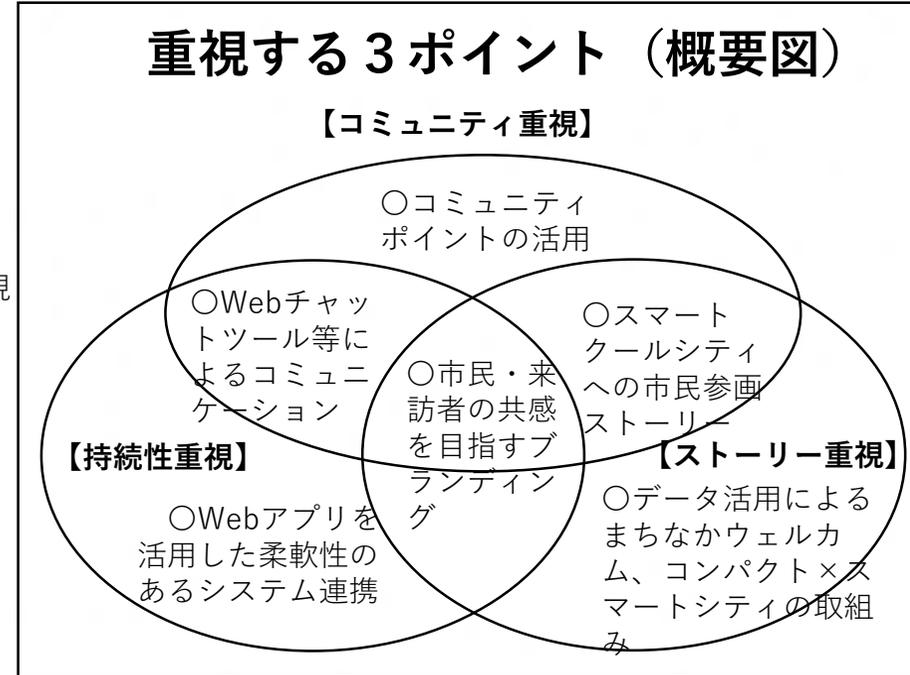
○Webチャットツール等によるコミュニケーション

- ～コミュニティポイントを支えるマッチングアプリ
- ～WebGISでのまちづくり、（仮）コミュニティラボを支えるチャットアプリ（～官民連携の取組みを支えるビジネスチャット）

○Webアプリを活用した柔軟性のあるシステム連携

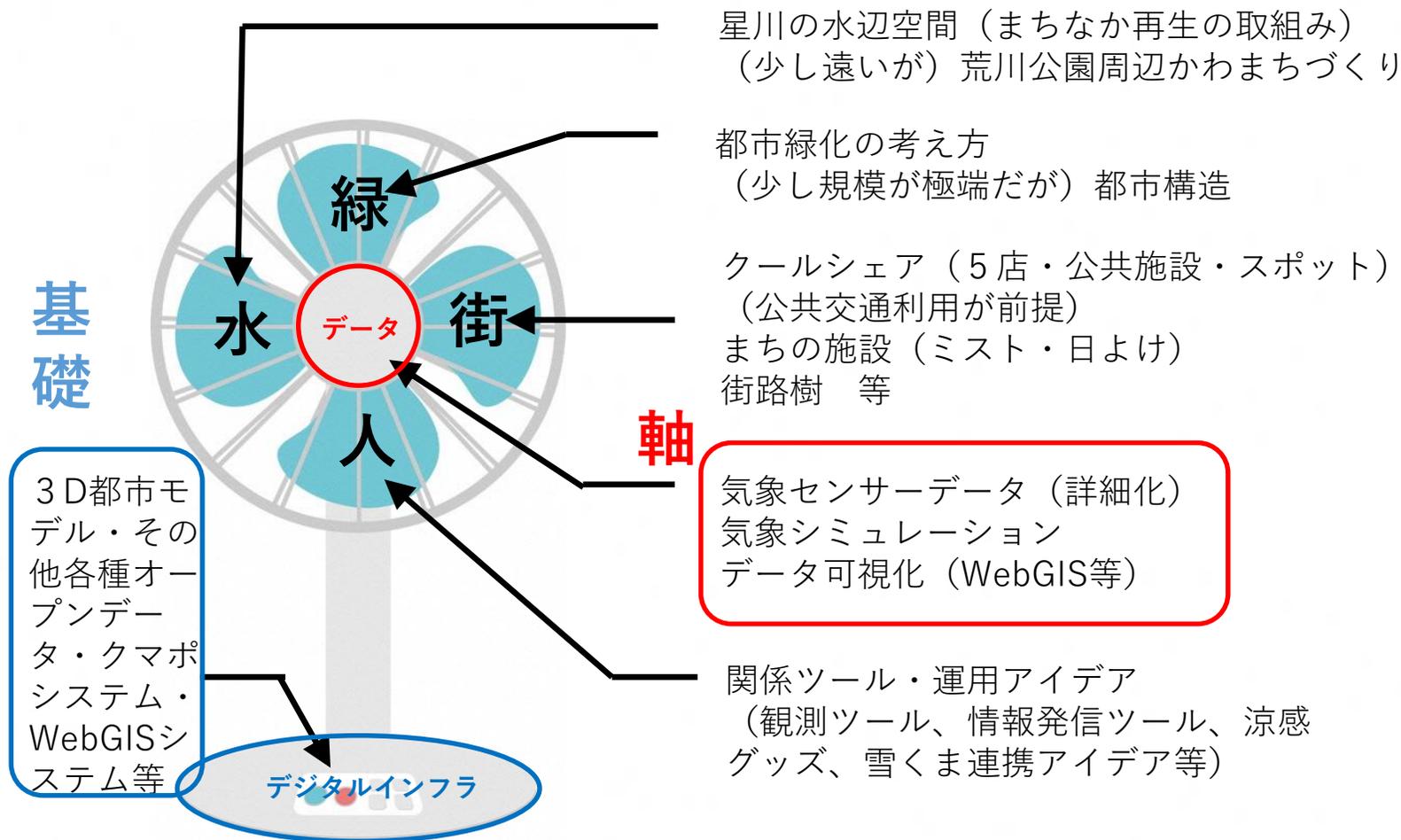
- ～LINEベースのポータル（クマぶら）の他は、原則としてWebアプリ同士のID連携による分散型として構築し、改修への柔軟性等を確保

重視する3ポイント（概要図）



参考46

■スマートクールシティへの市民参画ストーリーを構成する要素



暑さ対策スマートパッケージ（令和6年、7年夏）

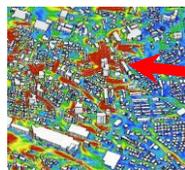
まちなか8か所に気象センサーを設置（令和5年度）
気象シミュレーションを実施



R5年度
気象シミュレーション範囲図
・シミュレーション範囲
熊谷駅を中心に徒歩15分圏内約2 Km
四方を想定



気象シミュレーションから、**ヒートエリア**となる空間・
時間の情報を**スマホサービス（クマぶら）**で提供

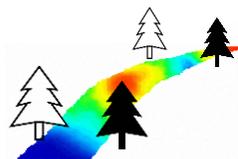


まちなかの**クールシェアスポット**を優先表示
暑い場所にある**クールシェアスポット**に**クマポ**を優遇付与



ポイント 2倍
ポイント 3倍

まちなかでの暑い箇所を**緑陰・日陰状況**によりう回する
目安として**道路の温熱環境**を可視化

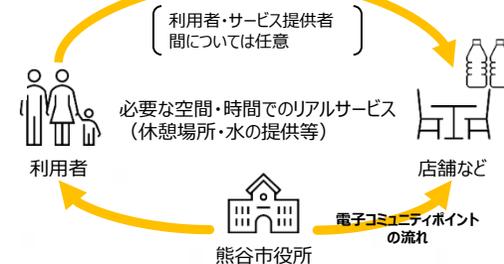


暑さ対策スマートパッケージ

今後の活用：気象データの研究活用や店舗利用者データの人流分析へ

R5年度 LOD2 整備範囲図
熊谷駅周辺エリア
(面積：0.6km² 建物：2,100棟)

クマポを行動変容に活用



市民・来訪者と店舗が
Win-Winのまちなかウェルカム

参考 4 7

■データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（2）

（まちなかでの体験創造・実証の場の検討）

生活の各拠点（住まい・仕事）との対流

観光・スポーツの各拠点との対流

市外との対流（通勤・通学・レジャー・交流等）

キーワード

『まちなかウェルカム』

まちなかへの人流
まちなかでの人流
まちなかからの人流

リアル

魅力あるサービスの提供

例：新規出店、店舗改善

+

歩きやすい・憩える空間づくり
と移動手段の確保

×

デジタル

オープンデータ化、デジタルを活用した情報提供

+

スマートシティで取り組む各種
市民サービスとの連携

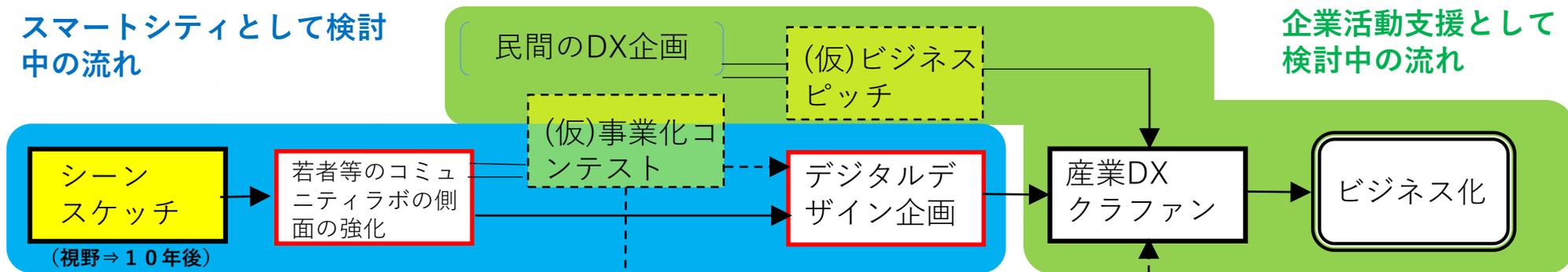
連携しての効果発揮のためには、人流データを活用した実施内容の検討・検証が不可欠

【コンセプト2】DXアイデア・事業創造の流れ

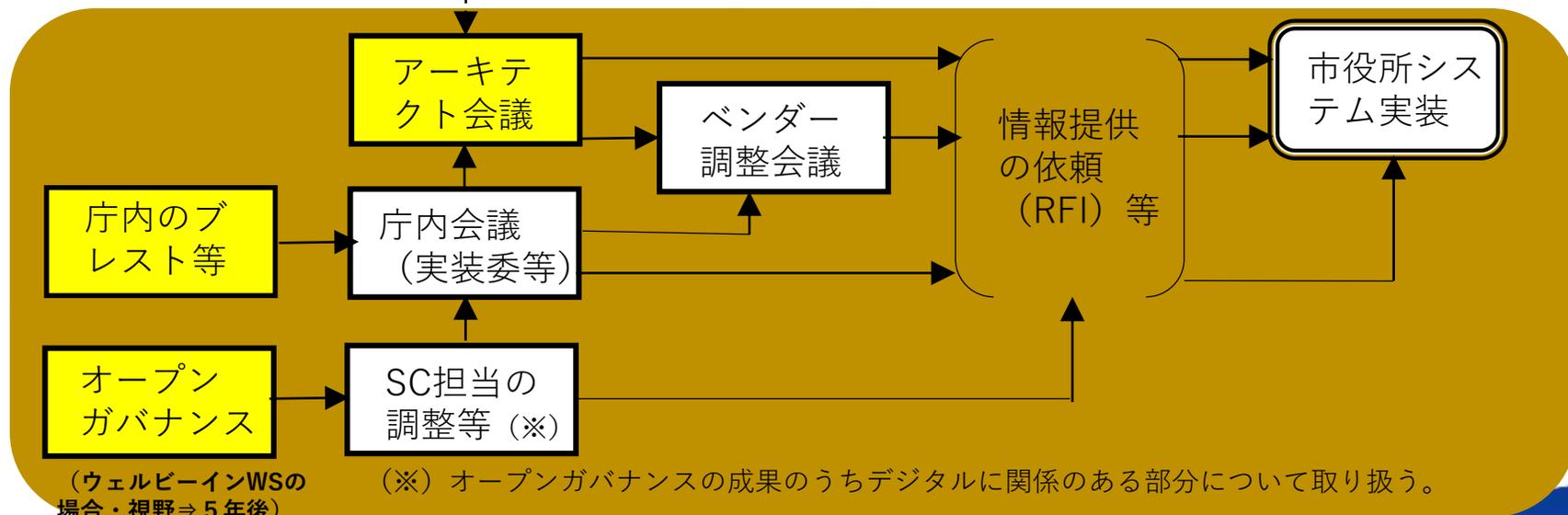
(※) ビジネス化や実装が次のサイクルのアイデア源 (図中の■部分) を活性化させる好循環を目指す。

スマートシティとして検討中の流れ

企業活動支援として検討中の流れ



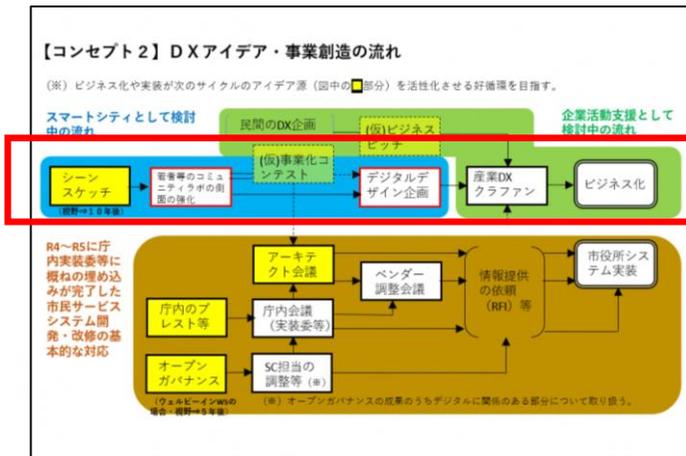
R4~R5に庁内実装委等に概ねの埋め込みが完了した市民サービスシステム開発・改修の基本的な対応



(ウェルビーイングWSの場合・視野⇒5年後)

(※) オープンガバナンスの成果のうちデジタルに関係のある部分について取り扱う。

■ デジタルデザインのルートマップ（ロジックモデル） 素案づくりのイメージ（検討中）



ペルソナ・ロジックツリーで解像度を上げたウェルビーイング因子について、その向上・改善・維持等を目的とした具体的な政策をデザイン（政策ロジックモデル）

【政策ロジックモデルの実例（公共空間＋事業創造）】

- 先進ビジネスを牽引する多様な民間リソースを、市内の社会関係資本への投資と循環につなげるハード&ソフト・インフラとして整備し、市民&在学在勤者の幸福度向上を目指す

現 状	<ul style="list-style-type: none"> オープンイノベーションと呼ばれるものの、実際にはそのような機会や場には縁遠い 民間のイノベHUBは金銭面でもハードル高い 	将 来 像	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス開発を協働できる企業や市民と、もっと気軽に出会いたい&試したい
------------	---	--------------	---

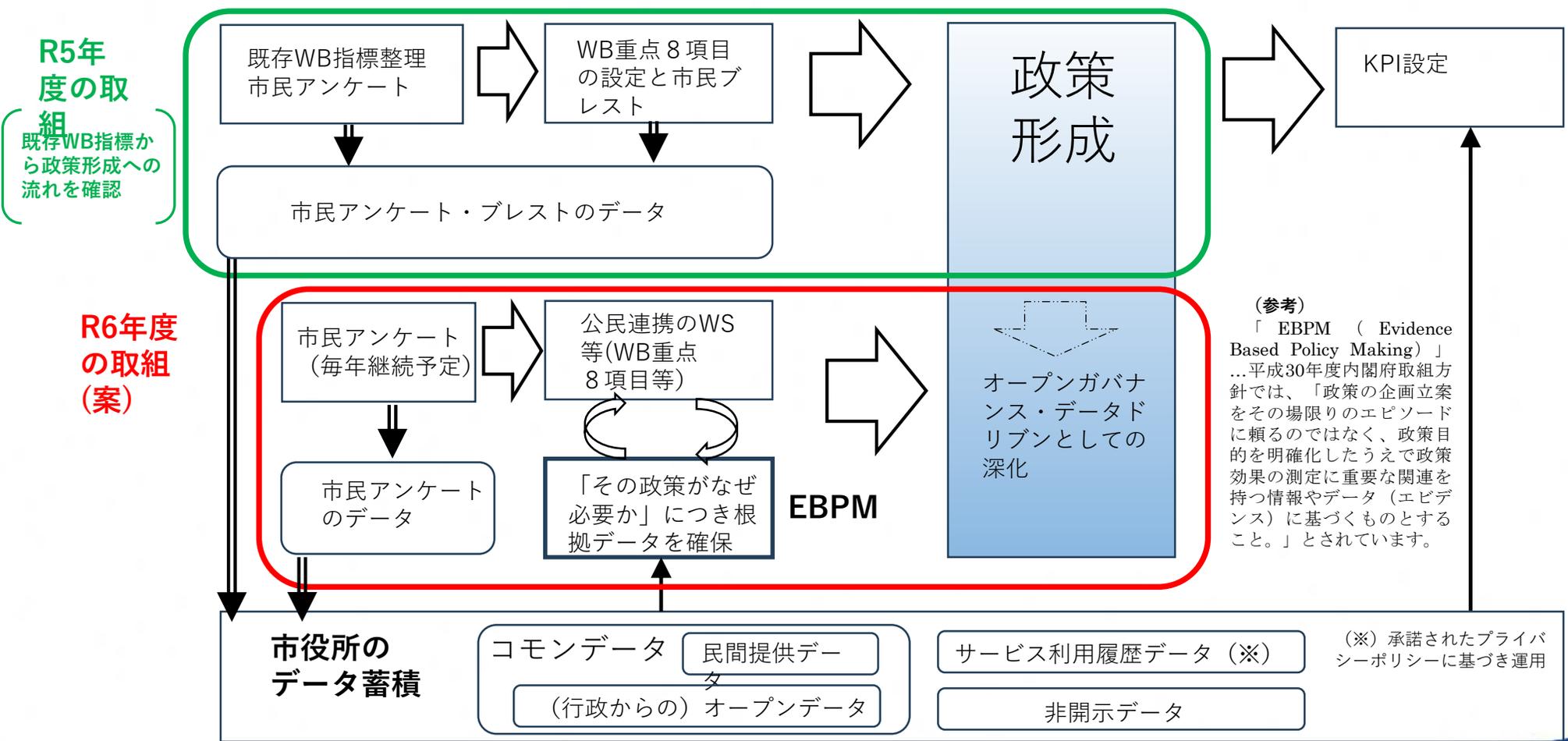
インプット	アクティビティ	中間アウトプット	最終アウトプット	総合インパクト
<ul style="list-style-type: none"> 【人】企業と企業・市民等とのマッチングとPJマネジメント 【場】より開かれたビジネス・イノベーションのための公共拠点の創出 【金】都や国も見据えた補助金や出資による第3セクター設立 【情報】市内で進行しているプログラミングの情報発信プラットフォーム 	<ul style="list-style-type: none"> 行政や市民との連携を推進する体制づくり リアル&バーチャルでの事業創造&リプログラミング拠点の開発 大学や産総研などアカデミアとの連携の仕組みづくり ビジコンや投資家との交流などプログラム企画～運営 	<ul style="list-style-type: none"> 第3セクター等による専門組織の組成 拠点への入居企業数 企業による拠点でのイベント開催数 参考した企業・大学（研究室）数 新規に立ち上がったベンチャー企業や事業の数と売上 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム参加や実証実験を実施した企業数、参加した区民数 社内外のベンチャー起業数 事業創造の実績（PJ数・論文数） VCの投資件数・額 	<ul style="list-style-type: none"> 市民・在勤者の幸福度の向上 市民・在勤者の生活満足度の向上 ⇒多様性と寛容性 ⇒事業創造性 ウェルビーイング指標における「公共空間」の主観指標と客観指標をそれぞれxxx-xxxに

(注) スマートシティインスティテュートがウェルビーイング指標の活用説明で用いた資料から抜粋したものであり、そのまま熊谷市への適用を目指すものではない。

参考 5 3

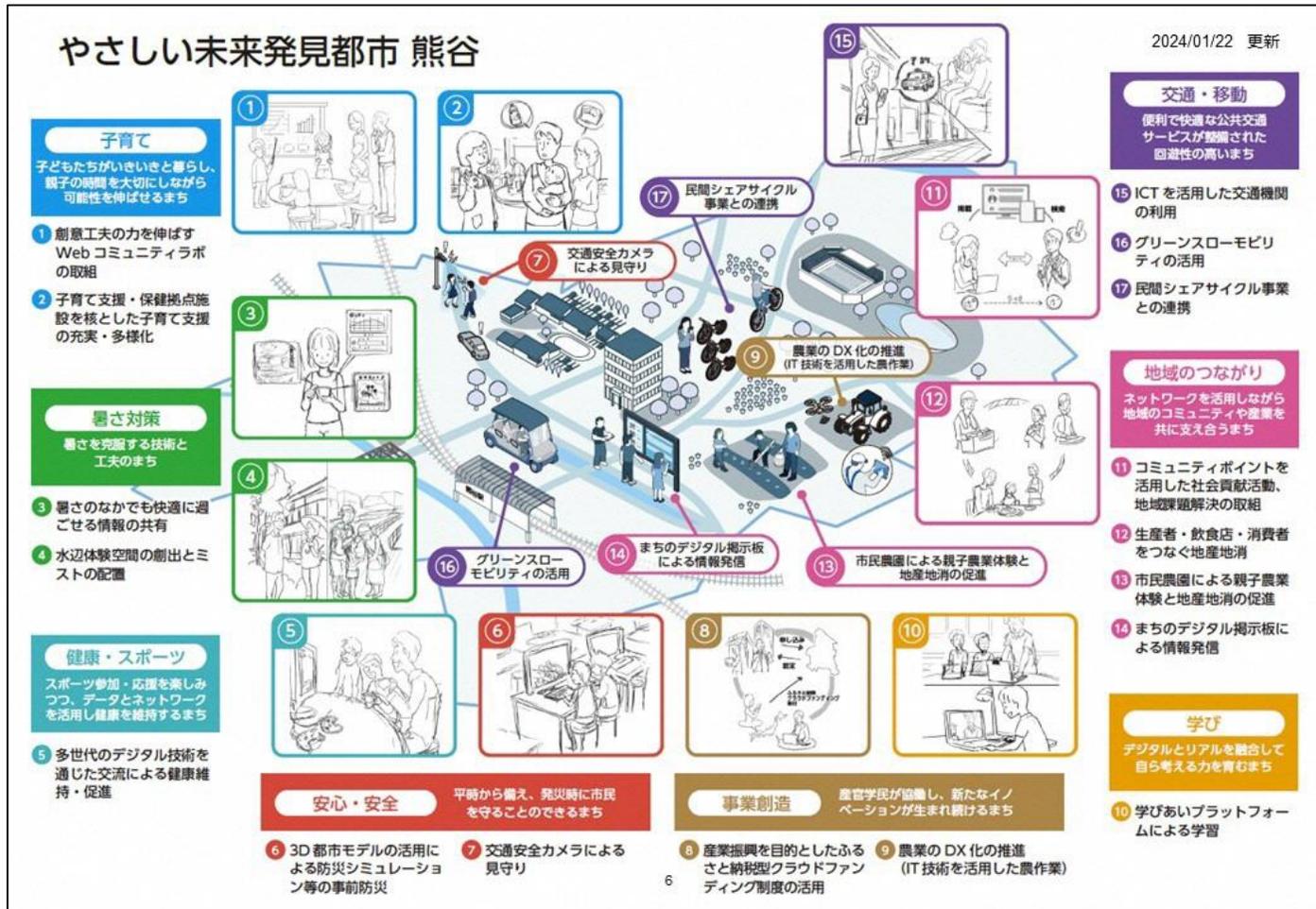
【コンセプト3】 ウェルビーイング指標の政策検討への活用 (EBPM)

熊谷市におけるウェルビーイング指標の活用とデータを活用した政策形成の関係 (案)
 (デジタル社会における政策実装の取組みのモデル)



■WB重点8項目とWBビジョンマップ（案）について

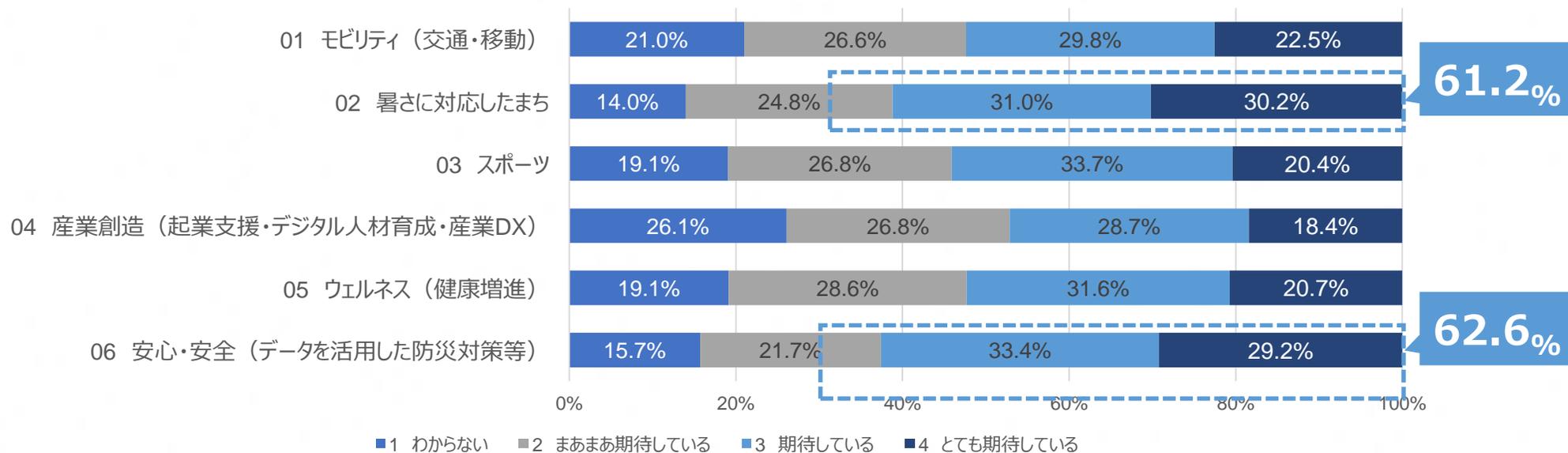
#	項目
1	モビリティ（交通・移動）
2	暑さに対応したまち
3	安心・安全
4	スポーツ・健康
5	地域とのつながり
6	事業創造
7	子育て
8	学び



ウェルビーイングビジョンマップ案（準備中）

（※）R6年度に熊谷スマートシティ実行計画の更新への反映を検討予定

■スマートシティ分野アンケート 6項目に対する期待値 (令和5年度ウェルビーイング業務におけるアンケートより)



■ 「やさしい未来発見都市 熊谷」と熊谷市総合振興計画（R5年度～）

【市民向け】現在デジタルツールに関心が薄い市民を含め、市民のために共に取り組みたい、という市役所の方向性を伝えるためのフレーズ。

【庁内担当者・関係者向け】各々の手法の目的・実践内容等（下線部）を共有

リーディングプロジェクト 「DXによる市民生活の利便性向上と新たな経済活動の創出」

熊谷市Society5.0の推進

○スマートシティ推進による地域コミュニティの活性化

○スマートエコタウンの整備促進による先進的な省エネ対策の導入促進と、コミュニティへのスマート手法の定着

○3D都市モデルの整備・活用によるまちづくりへの市民参画の確保

○公共空間のWi-Fi整備により誰でも・どこでもアクセスできるデジタル社会の環境整備

生活利便性の向上

○行政施策（スマートシティの実現など）の“まちの魅力”としてのシニアプロモーションによる、デジタル活用施策の利用促進、生活の利便性（満足度）向上の早期実現

○くまがやまち歩きアプリくまぶらの導入による、市民の利便性向上とデータ活用型サービスの進歩による好循環の促進

○地域経済を守るデジタル地域通貨の導入・普及
～電子マネー機能と並行して換金・購入補助を目的としないコミュニティポイント機能を実装し、相互扶助の活性化によるコミュニティの持続性確保を図る。

○マイナンバーカードの利活用拡大（個人の事情に合わせたサービス・セキュリティが必要なサービス等へのアクセス改善）

デジタル人材の育成

○地域の子供・若者の可能性の拡大、地域産業の活性化（起業・再チャレンジ促進等を含む）や行政の効率化等に向けたデジタル人材の育成

○教育現場のデジタル化の推進による学びの充実

デジタルガバメントの推進

○自治体DXの推進による人にやさしい熊谷の実現
～（仮称）窓口業務改革PTをR5年度に創設予定。（「持たない」「分かりやすい」「行かなくていい」）

○オープンデータの推進による市民連携のデータづくり・活用の促進

○データ連携基盤の整備と活用による、データ活用の産学連携、広域自治体連携等の促進

（参考）他のリーディングプロジェクトにおけるDX関連項目

○子育てアプリの活用
～親子の笑顔が輝くまちづくり

子育て世帯向け情報提供の改善等の検討に取組中

○ユニバーサルデザインのまちづくり
～誰もが活動しやすく、支え合う地域づくり

バリアフリー情報のデジタル化等に取組予定

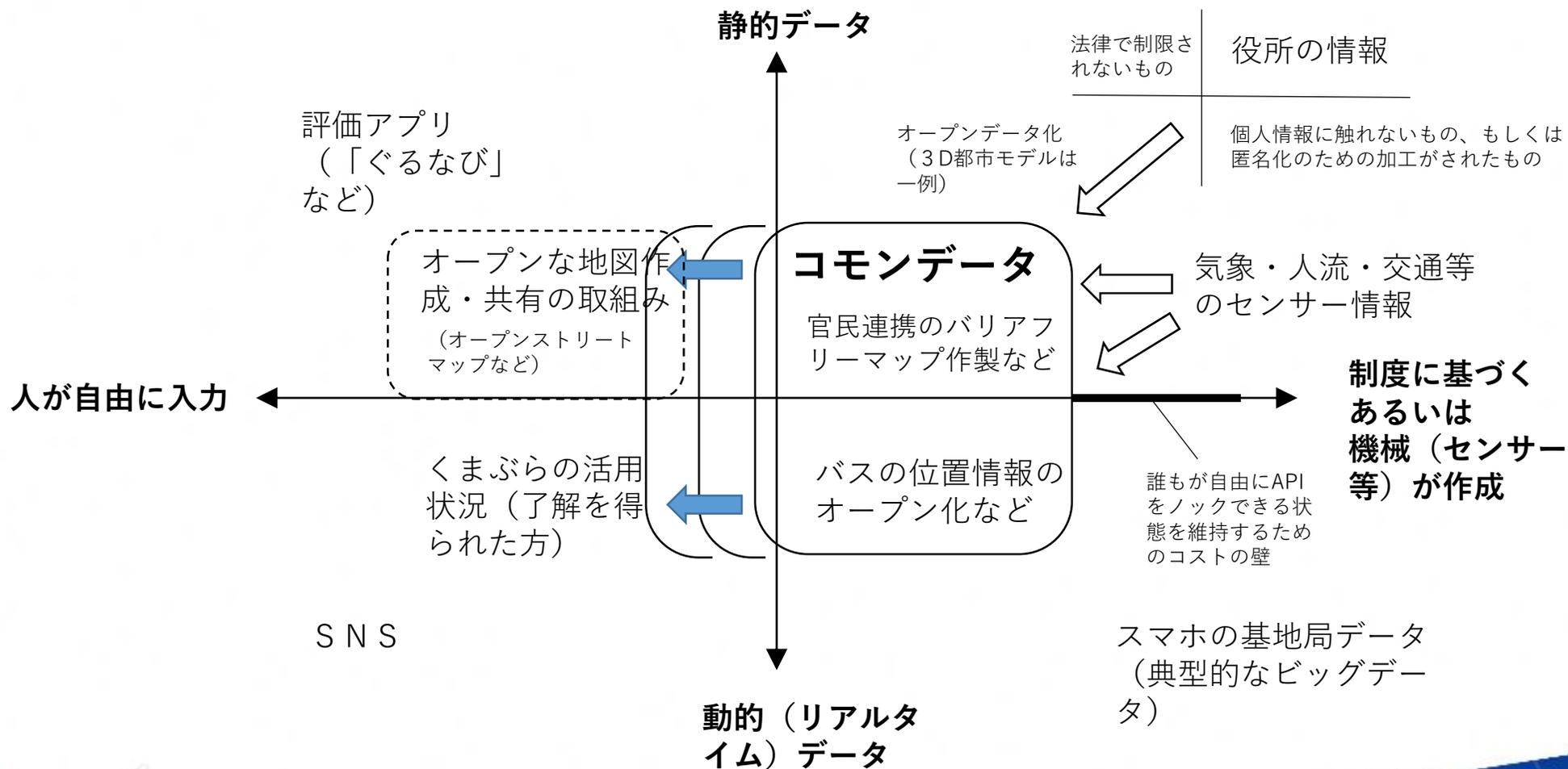
○移動支援及び公共交通の充実
～誰もが活動しやすく、支え合う地域づくり

Maas及び人流に着目したまちなか活性化等に取組予定

○熊谷版スマートハウスの推進
～ゼロカーボンシティを実現するまちづくり

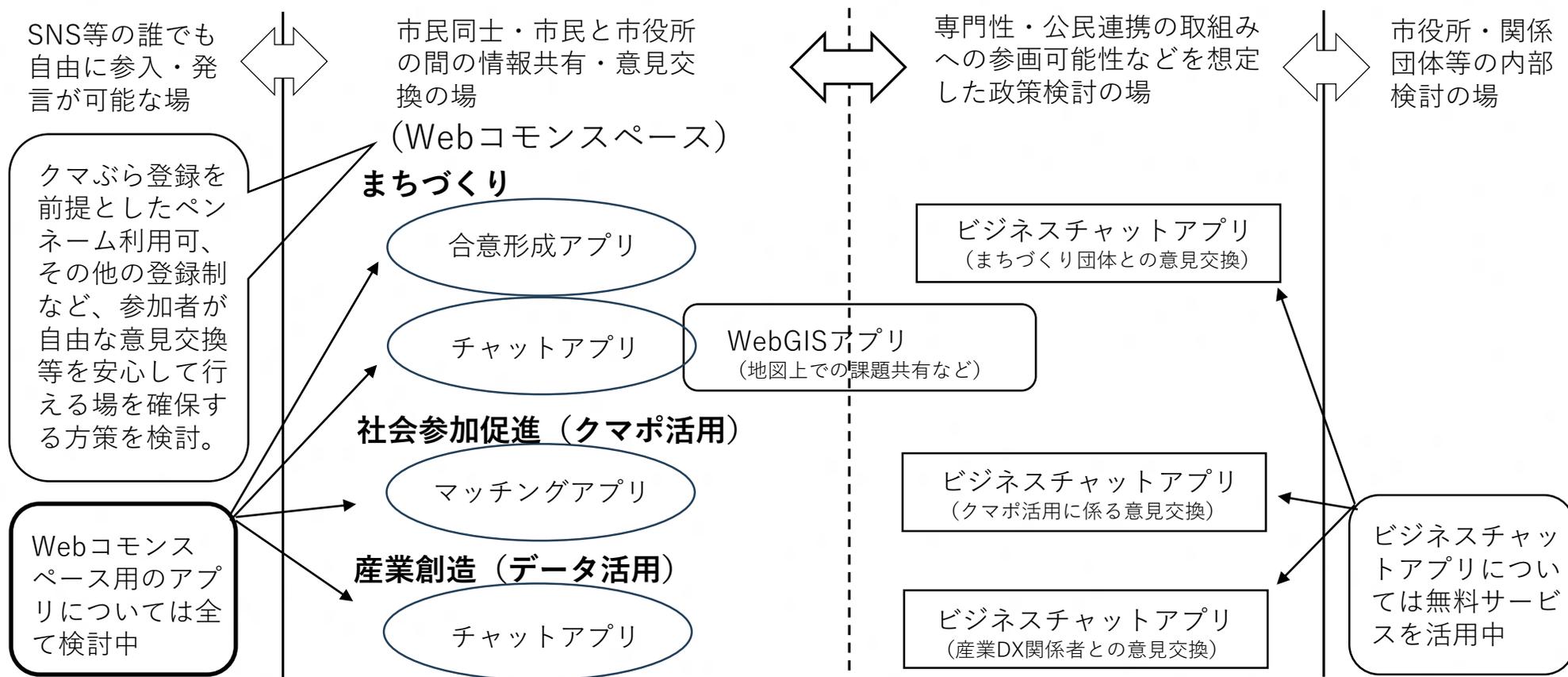
気候シミュレーション・公共交通活用等と連携

【コンセプト4】コモンデータ・Web commonspaceの考え方による公民連携のデータ活用（誰でもデータ作成に関われる仕組みの考え方）

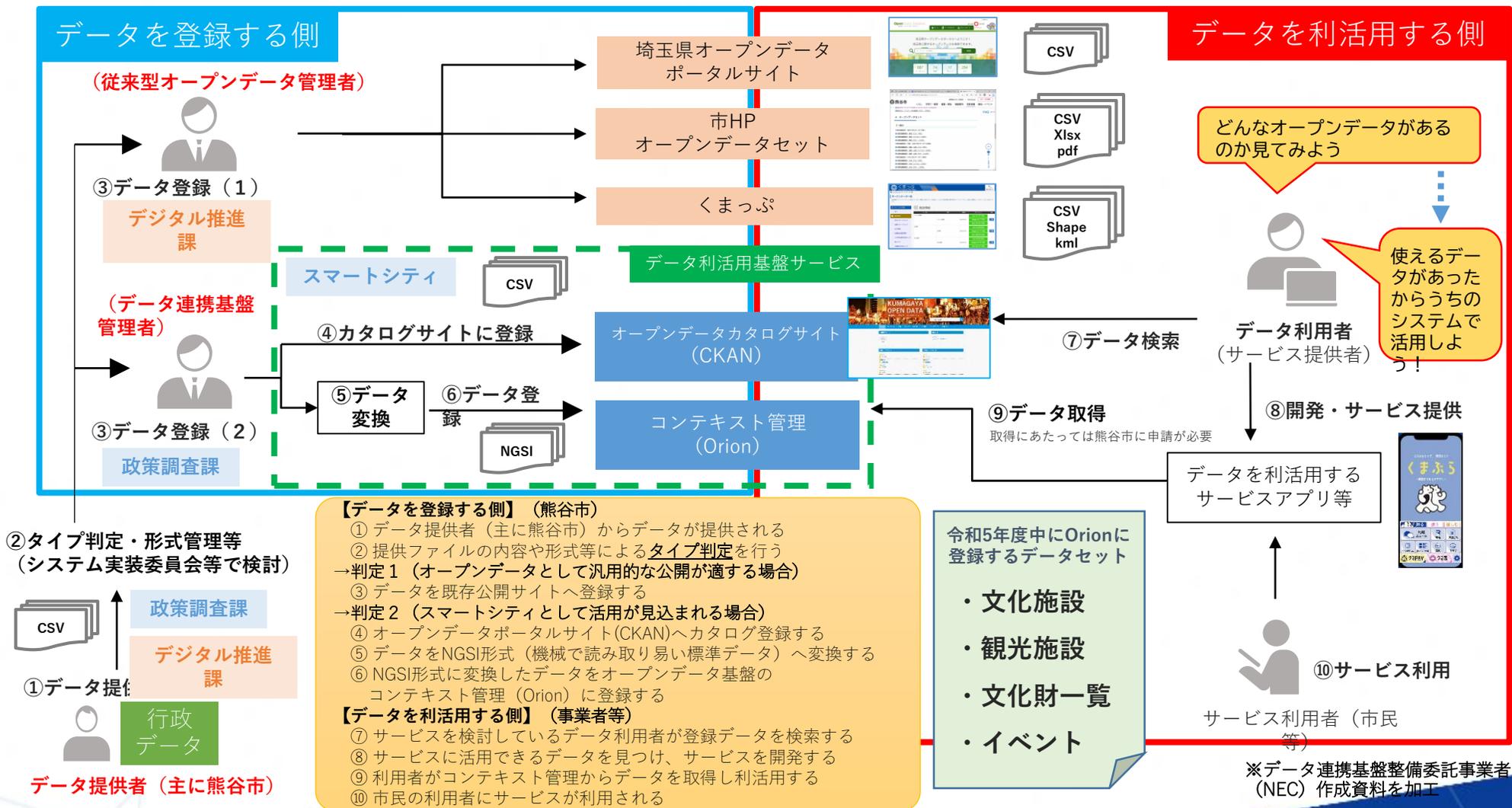


■Webコミュニケーションツール等の活用（Webコモンスペース）による協働

まちづくり、社会参加促進（クマポ活用）、産業創造（データ活用）等の分野における、公民連携や民間主導の取組みを促進するためWeb上の情報共有・意見交換の場（Webコモンスペース）の設定を積極的に検討。



■ オープンデータ基盤を活用したデータ利活用の流れ



【参考資料】

■熊谷スマートシティの宣言・方針・実行計画等の構成について

【1】熊谷スマートシティ宣言（理念・目的（パーパス））

【2】熊谷スマートシティトータルブランディング方針

（1）デザインルール

- ・やさしい未来発見に向けた3つの好循環
- ・ビジュアルの統一について ←
- ・スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及 ←
- ・「暑い」に類する表現の使い方について

SSID（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）ガイドライン

熊谷スマートシティスキルカタログ

（2）政策企画方針（コンセプト）

- ・熊谷スマートシティの政策企画において重視するポイント
- ・新たなアイデアを熊谷スマートシティ、市内産業DXに取り入れる流れ ←
- ・ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）
- ・コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用 ←

（仮）デジタル・デザインルートマップ

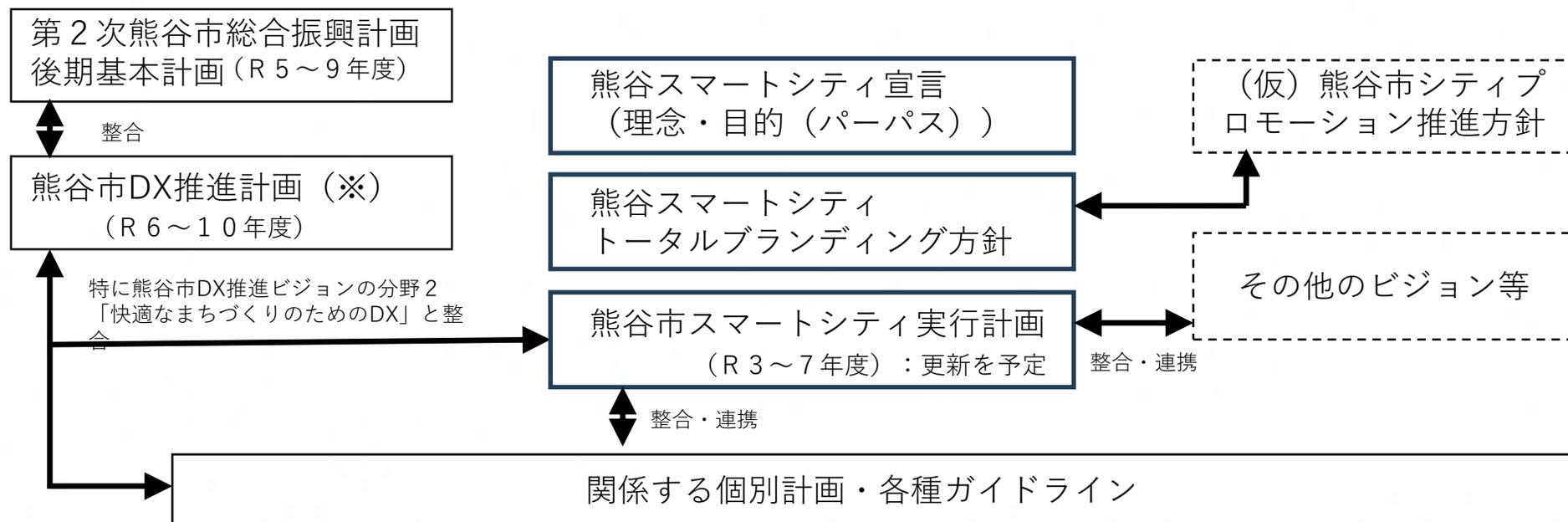
（熊谷スマートシティ版）市民参加型のWebGISの活用に向けた取組みの手引き

【3】熊谷スマートシティ実行計画（具体の実行の段取り）

ウェルビーイングビジョン（R5年度）

■市の各種計画（総合振興計画・DX推進計画等）との関連について（案）

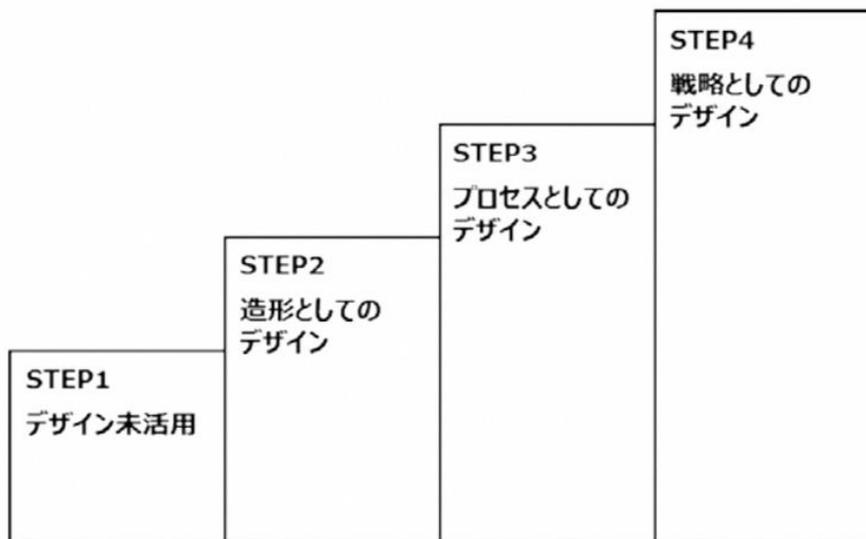
「熊谷市DX推進計画」及び「熊谷市シティプロモーション推進方針」の策定後に「案」が取れる予定。



(※) 熊谷市DX推進計画は、官民のデータ活用推進基本方第9条第3項に規定する「市町村官民データ活用推進計画」としても位置付けられる。

■ デザイン・ラダーモデルとの関係について

＜「デザイン・ラダー」モデル＞



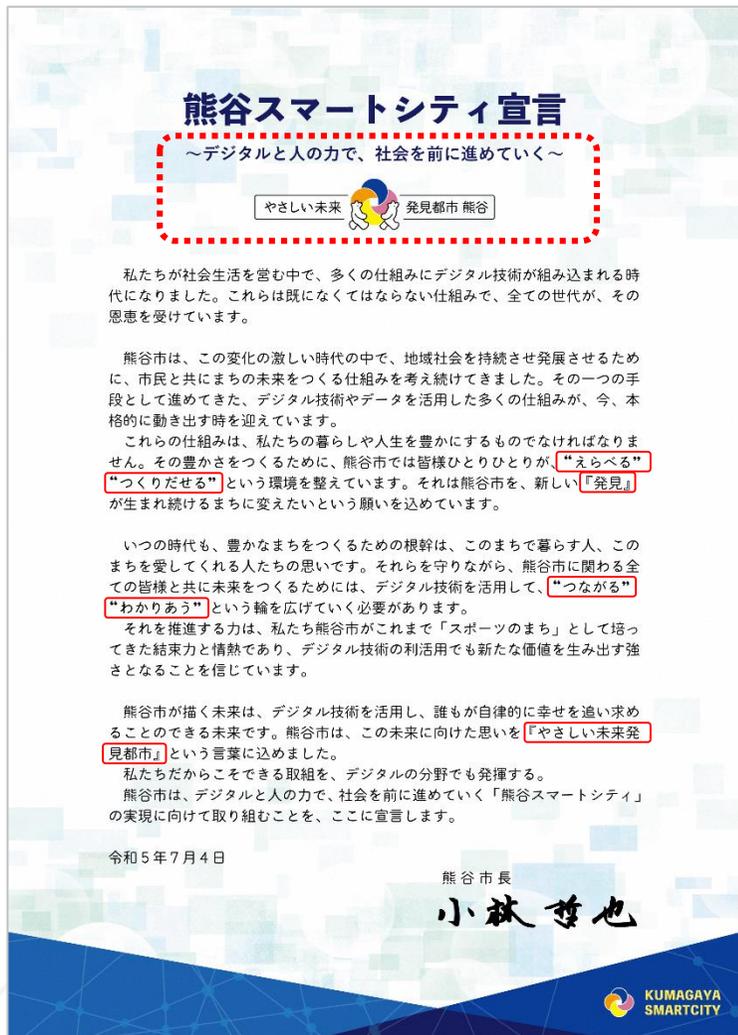
(出典 : Danish Design Centre 'The Design Ladder' を基に作成)

(出典) 「デザイン政策ハンドブック2020」(経産省) 「I デザイン政策の概要」より抜粋
 デザイン活用の段階 組織におけるデザイン活用の段階を表したモデルとして「デザイン・ラダー」(デザインの段階) 12 があります。2001 年にデンマーク・デザイン・センターが提示したこのモデルでは、4つの段階、すなわち、「デザイン未活用 (Non-design)」、「造形としてのデザイン (Design as form-giving)」、「プロセスとしてのデザイン (Design as process)」、「戦略としてのデザイン (Design as strategy)」が示されています。ここで、第1段階の「デザイン未活用」は、組織としてデザインを活用していない段階、第2段階の「造形としてのデザイン」は、デザインを製品・サービスの外観の仕上げ、スタイリングとして活用している段階を表しています。また、第3段階の「プロセスとしてのデザイン」は、製品・サービス開発の初期段階からデザインのプロセスが取り入れられ、デザイナーのみならずエンジニアやマーケッターなど他領域の専門家との協働が行われている段階、そして、第4段階の「戦略としてのデザイン」は、経営者や経営層の協力の下、企業のビジョンやビジネスモデルを変革するためにデザインの考え方を活用している段階を表しています

○トータルブランディング方針の構成においては、「デザイン・ラダーモデル」を参考とした。

○具体的には、市役所の業務への導入を念頭に、「造形としてのデザイン」「プロセスとしてのデザイン」を「デザインルール」に、「戦略としてのデザイン」を「政策企画方針(コンセプト)」に置き換えての検討を行った。

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連（補足1）



熊谷スマートシティでは、以下の2つをキーワードとして設定。

『やさしい未来発見都市』

『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』

『熊谷スマートシティ宣言』では「データ活用」だけでなく、「人の力」の重要性も伝えるというコンセプトから以下のワードを使用。

『えらべる』 『つくりだせる』 『つながる』

『わかりあう』

『発見』 という概念で全体にまとわせ、スマートシティ政策の統一感を出す。

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連（補足2）



宣言と同様、熊谷スマートシティのキーワードである以下を使用。

『やさしい未来発見都市』

『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』

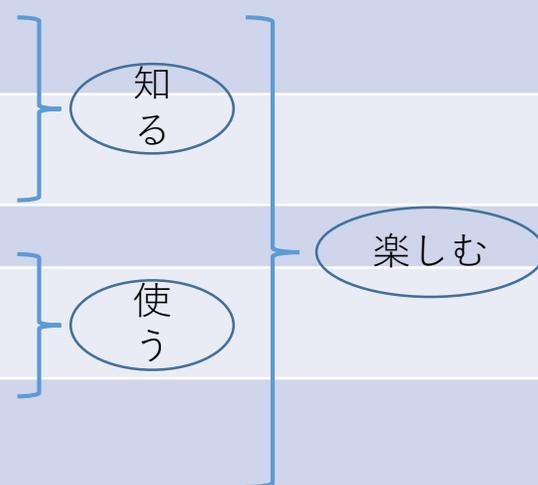
『熊谷スマートシティシンポジウム』は、「**実装する事業**」の発表がメインであることから、**今後の事業展開によって期待される**、以下のワードを使用。

『わかる』 『つながる』 『選べる』 『見つける』

熊谷スマートシティ宣言と同様、**『発見』** という概念で全体にまとめ、スマートシティ政策の統一感を出す。

■ 熊谷スマートシティと「クマぶら」のワードの関連性

共通キーワード：「やさしい未来発見都市」、「デジタルと人の力で社会を前に進めていく」

	宣言	シンポジウム	クマぶら	クマぶらのリッチメニュータブ
共通概念	「発見」			
コンセプト	「人の力」と「データ活用まちづくり」を伝える	「データ活用まちづくり」と実装を伝える	「クマガヤ知るなら」…新たな使い方、自分なりの楽しみ、自律的な幸せの発見 ※ 入口としての役割を果たすため、「使いたい」メニューを探しやすくすることを第一とする。そのうえでシンポジウムのキーワード「知る」「使う」「楽しむ」に分類。特に「楽しむ」は全体にかかりながらも「豊かさ」を実現するために「精神的な欲求」を満たすアプローチ要素を持つメニューを入れる。	
「わかる」知識を得ることで気づきを得ること	文脈の「発見」に含む	○	様々な情報を得られることで「わかる」（クマぶら）	
「わかり合える」人とつながることで他者を理解すること	○	市長の「宣言」により「人」への重要性は伝わる	つながることで相手と「わかりあえる」（クマポ）	
「つながる」	○	○	「つながる」ことができる（クマポ）	
「えらべる」	○	○	豊富なメニュー（クマぶら）、様々なつながり（クマポ）、地域電子通貨の使用パターン（クマPAY、バス）	
「見つける」データそのものやデータ活用の未来を見つける	文脈の「発見」に含む	○	自分の「好き」を「みつける」ことができる（クマぶら）	
「つくりだせる」見つけることで作りだすことができる	○	各課が発表する事業を「つくりだされたもの」と整理	※クマぶら利用者がクマぶらで「つくりだす」はないが、集めたデータで新しい事業やサービスを「つくりだせる」	

■熊谷市における自治体DX・スマートシティの取組みと熊谷市版ITリテラシーの関係

熊谷市DX推進本部でのリテラシー向上が主に目指す範囲

『庁内でシステムを活用し業務を改善できる職員の確保』

(※) 基幹系システムは関わる部署が限定され、追加でスキルが必要とされる部署には専門職を配置。

① DXに関する理解等

デジタルを活用した業務改善の必要性

② IT手法に関する理解等

基幹系システム・複雑な事務系システムの取扱い

政策システム（市民サービス、市民参画ツールなど）の企画・実装・運用（将来的には民間システムとの連携も見込まれる。）

③ EBPMに関する理解等

庁内のデータで職員が検討可能なEBPM

市民サービス利用履歴などのデータ活用（利用者本人の同意により提供されたものに限る）

うちスマートシティ戦略部会でのリテラシー向上が主に目指す範囲

『デジタルと人の力で社会を前に進めることに市民と共に取り組める職員の確保』

(※) 政策システムは関わるか課や担当が拡大中。着任後に円滑に追加スキルを確保することが必要な場合あり。

【参考】熊谷市における「スマートシティ（SC）」の指す内容

市内全体のデジタル系の取組の総称としてのSC（広義）

基幹系システム
事務系システム

市役所のデジタル施策全般

政策システム面のSC（狭義）

実証支援等

データ活用

民間主体のデジタル系の取組

市の施策以外のどの範囲を広義のSCに含めるかは業界と市役所の戦略により変化

【注】「ITリテラシー」と「ITスキル」の区別（熊谷市役所における定義）

・ITリテラシーは一般的な業務の基礎となる知識等を指し、スマートシティに関係するシステムやデータの設計・実装・運用等に関わる上での基本的な考え方を整理したITスキルとは区別される。

■熊谷スマートシティにおける「暑い」に関する表現の調整経緯等

○熊谷市の「暑さ」の歴史（スマートシティ関連事項の詳細）

・平成17年から、前市長の下で熊谷市の暑さ、市民の気持ちの熱さ、人情の篤さなどの「あつさ」をキーワードにした「あついぞ！熊谷事業」を実施。

・平成19年、当時の国内最高気温を観測したことを契機に「熱中症から市民の健康を守ること」を緊急課題に捉え、この課題解決を図るとともに、「快晴日数日本一」という特徴的な気象条件を生かした地域振興策を事業化したプロジェクトを開始し、暑さ対策に軸足を移した。

・平成30年度～令和4年度を計画期間とする第2次総合振興計画前期基本計画において「暑さ対策日本一の推進」をリーディングプロジェクト」に掲げた。

・令和4年度、暑さにかからせて行ってきた政策の全面的な見直しを実施。
 →41事業中、19事業を継続（主に駅前広場冷却ミスト、太陽光発電補助、学校教育等）とし、22事業を廃止（主に啓発、グッズ配布、表彰等）と決定した。
 →廃止事業のうち、市内30小学校に設置している老朽化したWBGT計の撤去は、センサーやデータの有効性を再確認するため継続検討とされたが、結果的にR5.秋に撤去した。

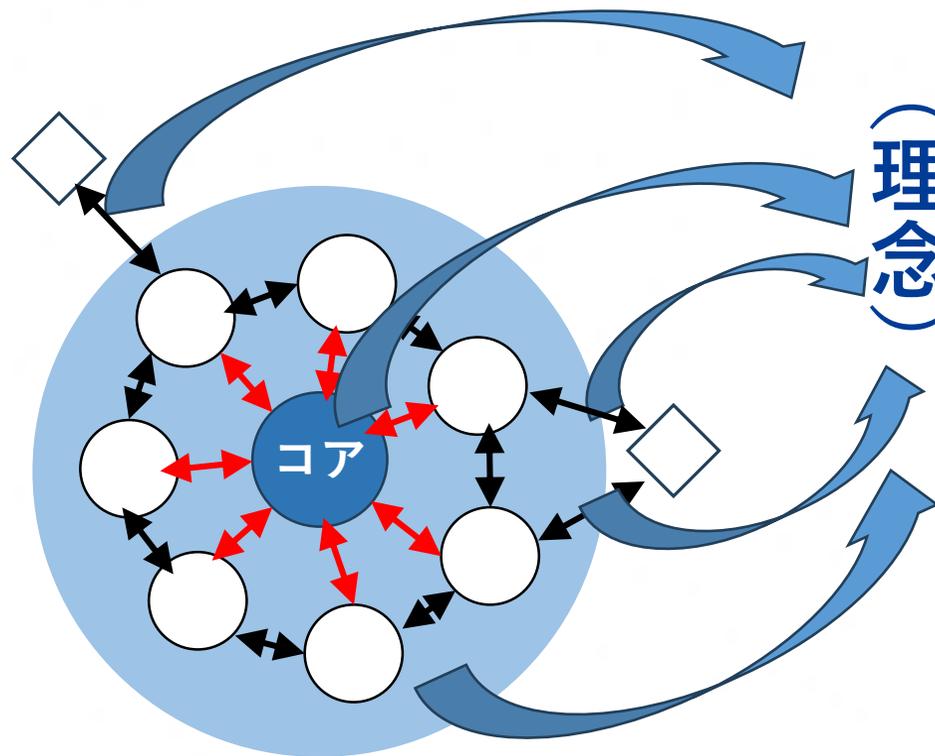
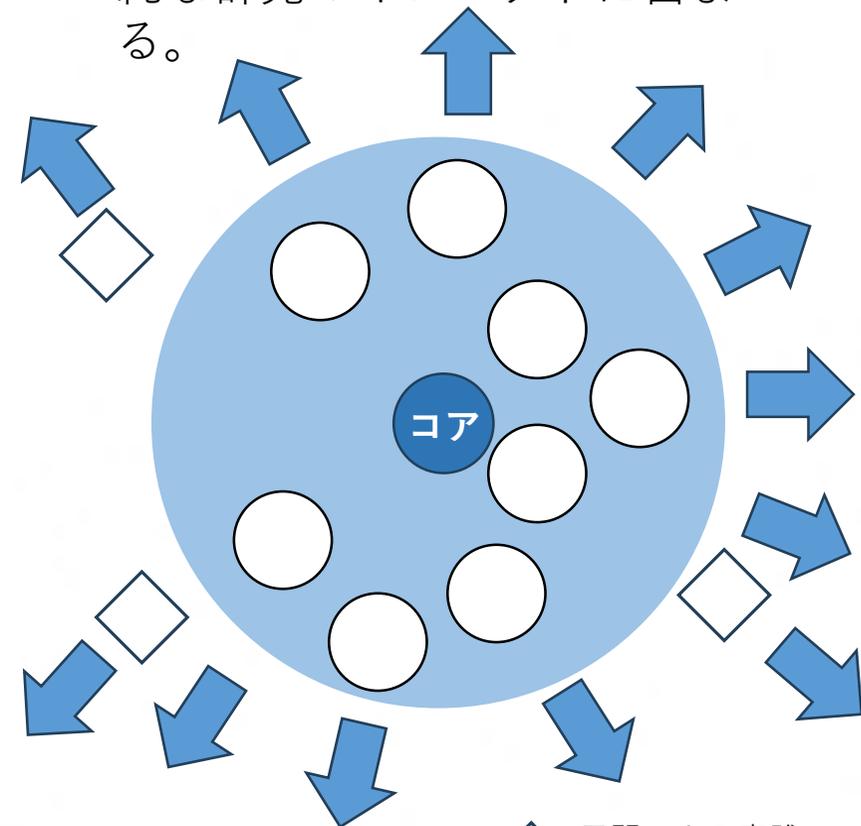
・令和4年度、スマートシティ施策の一環としての「暑さ対策スマートパッケージ」により「暑さ対策スマートコミュニティの実現を目指すことについては、新しい切り口で暑さを扱うこととした。

・併せて、必要な場合には「日本一アツイスマートシティ」の表現を用いることとした。

■ブランディングの核（コア）となるストーリー・コンセプトの重要性について

【1】核（コア）が小さくインナーブランディングや連携の重視が表明されていないならば、単純な群発のインパクトに留まる。

【2】核（コア）を置き①庁内でのブランド磨き（インナーブランディング）や②部署間・公民連携を評価する方針により効果的・持続的なブランディングを目指す。



(理念) 目指す未来

【凡例】

○ 行政による実践

◇ 民間による実践

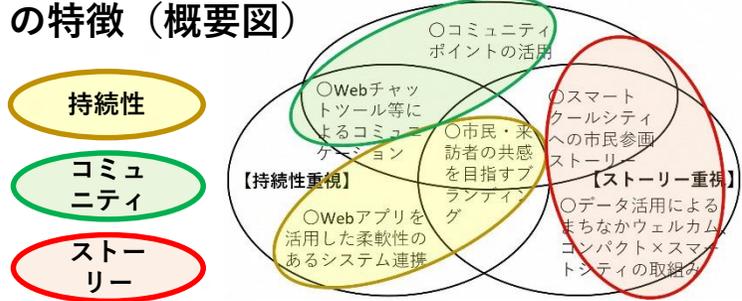
➡ 外部への発信

↔ 核（コア）になるストーリー・コンセプトと実施内容の照応による、ストーリーの定着、実施内容の向上（インナーブランディング）

↔ 核（コア）になるストーリー・コンセプトで結びついた部署同士・公民の間での連携や補完

熊谷スマートシティにおいて重視する点と実行計画の関係整理

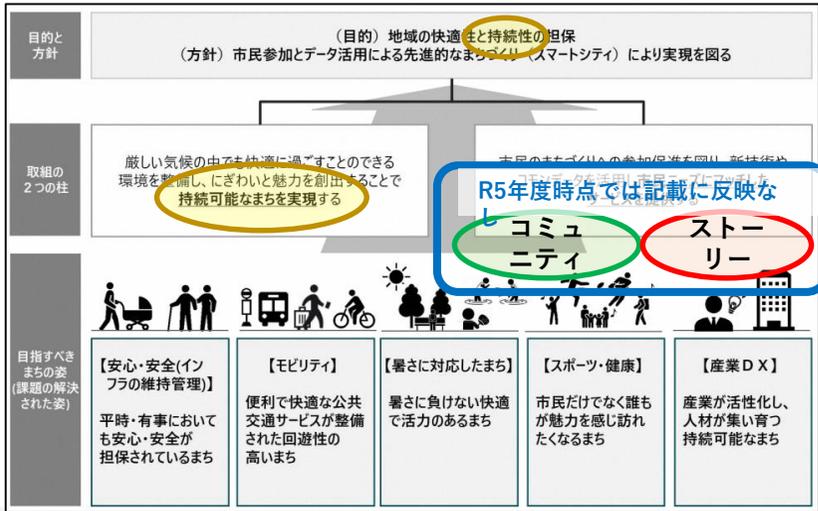
熊谷スマートシティの特徴（概要図）



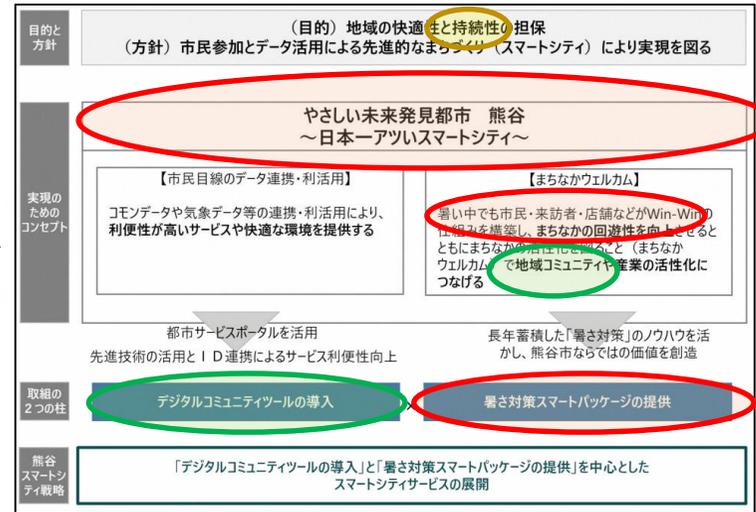
令和5年12月更新版の熊谷スマートシティ実行計画との関係は以下【1】【2】のとおり。

（補足）
 ・熊谷スマートシティにおいては、令和3年度に実証実験用に策定した実行計画を令和5年度・令和6年度の二段階で、実装用の計画に更新中。
 ・令和5年度12月の更新時点では、左図の「Webチャットツール等～」「～ブランディング」「スマートクールシティ～」等の内容が未整理であったため、令和6年度の改訂への反映に向けて検討中。

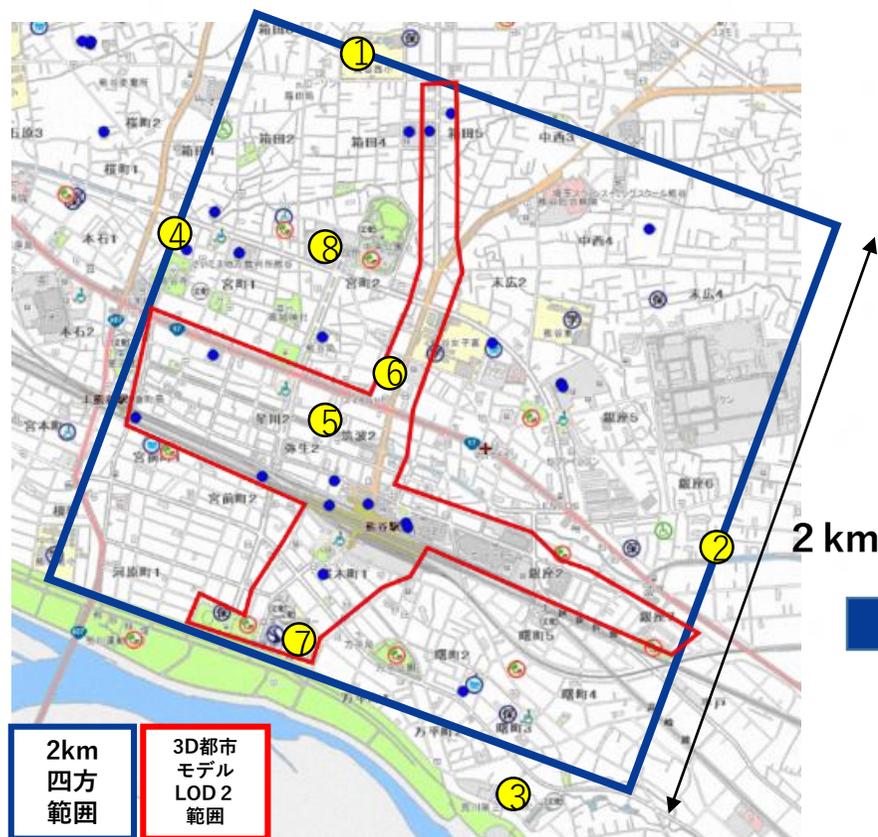
【1】熊谷SCの目指す5つの姿について重視する観点（観点としては「持続性」を重視）



【2】熊谷SC実装時に核となるコンセプトとシステム（「持続性」を前提として具体的なシステム的设计・実装に落とし込む際には「コミュニティ」と「ストーリー」を重視）



■ 気象シミュレーション及び3D都市モデルLOD2化の範囲

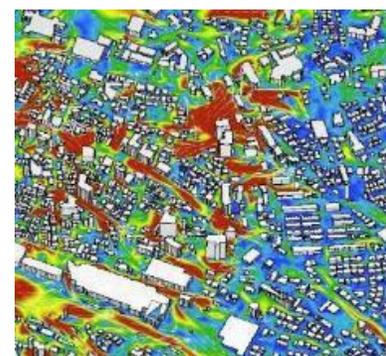
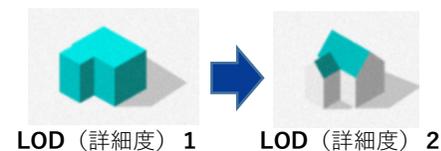


気象センサーの設置（左図①～⑧）と活用

- ・主旨に賛同を得た民間ビルの協力も得つつ、8か所に設置。
- ・気象データはサーバーの負荷も考慮しつつ研究等に提供を予定。

3D都市モデルの詳細化

➡ 気象シミュレーションの精緻化

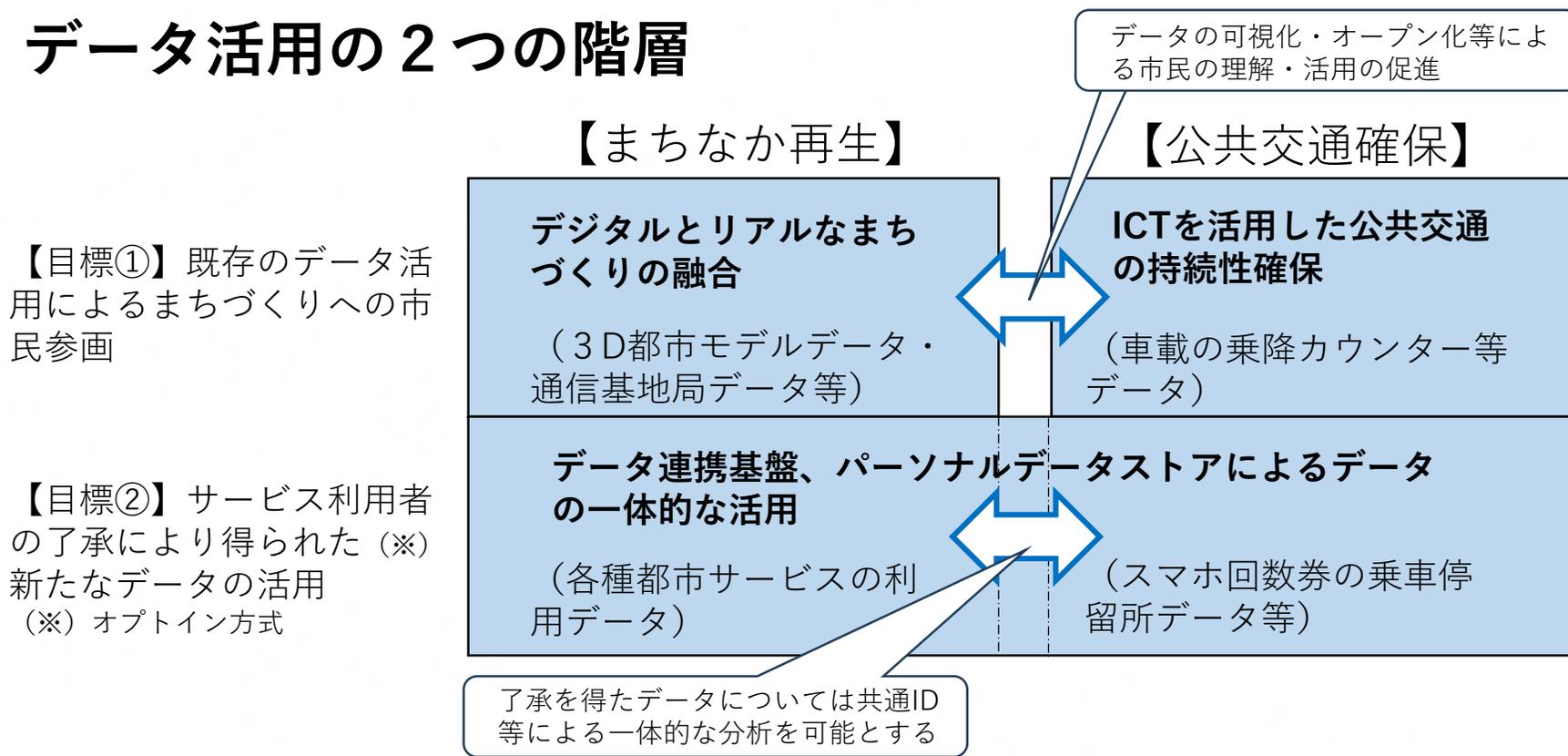


気象シミュレーション
(イメージ)

2 km四方

■データを活用したまちなか再生と公共交通確保（1）

データ活用の2つの階層



■データ活用によるまちなか再生と公共交通確保（2）

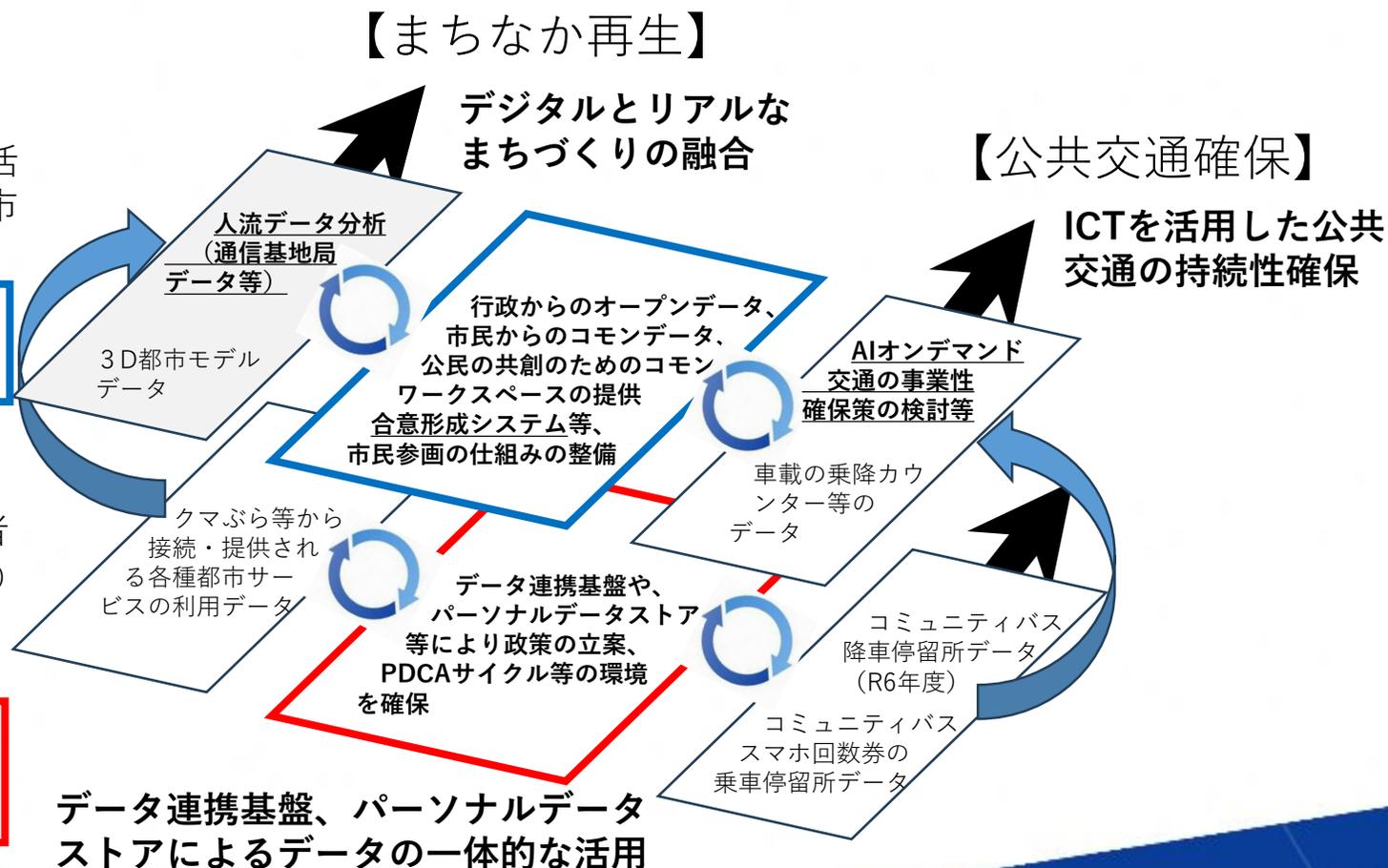
取組みの詳細

【目標①】既存のデータ活用によるまちづくりへの市民参画

データの可視化・オープン化等による市民の理解・活用の促進

【目標②】サービス利用者の了承により得られた（※）新たなデータの活用
（※）オプトイン方式

了承を得たデータについては共通ID等による一体的な分析を可能とする



■ 「暑さ対策パッケージ進化プラス事業化プロジェクト」 (検討中)

(※) (仮) 熊谷デジタル・デザイン企画第一号案

○令和5～6年度に熊谷スマートシティが取り組む気象シミュレーションに応じた行動変容施策の提供は、市民の健康を守りつつ地域の活性化を図る面で先進的な挑戦であるが、快適な環境づくりを促す上では、さらに緑の効果をシミュレーションに取り込んでいくことが望ましい。
 ○さらに当該手法は、理論、センサー技術などの事業化要素は揃っているが、自治体のデータ活用協力への本気度、大学との連携の緊密さなどの要素が揃った場がなく、創業の可能性あり。

引き続いてのスマートシティとしての持続性確保の取組み

スマートシティのレベルアップとDX創業の連動を目指す

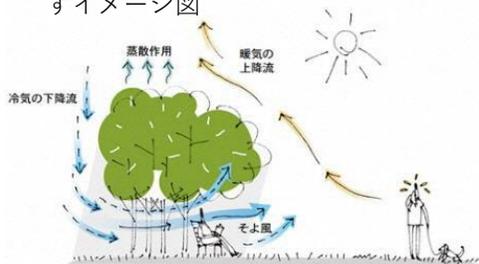
【目標】DX創業第一号 (令和7年度)

【要素1】測定データ分析技術
 学術研究論文は充実・事業化は未開拓

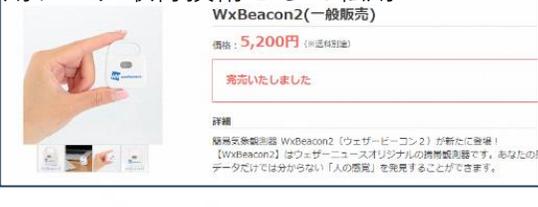
【成果1】熊谷市の暑さ対策スマートパッケージの進化を実現 (埼玉版スーパーシティ事業の要望を想定)
 【成果2】地元大学等に他都市に横展開(事業化)可能な実践ノウハウを蓄積

緑地・街路樹等の作り出す快適性をシミュレーションに組み込む上では、「様々な時間」に「移動しながら」取得されたデータが有効。

(参考) 樹木が風の流れを作り出すイメージ図



【要素2】スマホ連動型気象センサー技術は普及済 (画像は2017年の商品)
 気象予報サービス業界では事業性の薄くなった既存技術を都市環境改善提案用データ取得技術として転用



熊谷市がR6年度創設する産業DXふるクラ (注) による起業支援



(注) ふるクラ：ふるさと納税型クラウドファンディングの略

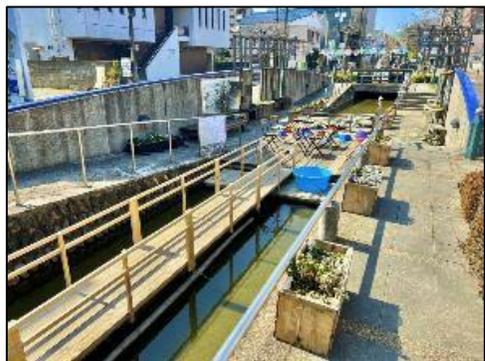
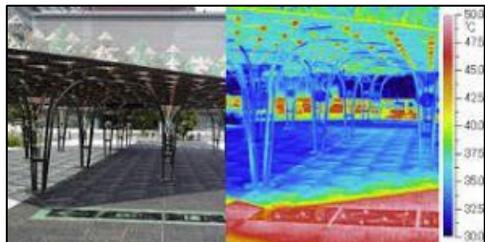
「都市環境」分野を「地域DX」メニューブックに打ち出し全国に発信

デジタル田園都市国家構想応援団 「地域DX」メニューブック

目次	
① 行政サービス	P.3
② 住居サービス	P.9
③ 健康・医療	P.11
④ 教育	P.12
⑤ 防災	P.13
⑥ 交通・物流	P.14
⑦ 農林水産	P.15
⑧ しごと・金融	P.15～18, 32, 80～92
⑨ 観光文化	P.6～7, 15～17, 38, 53, 58, 81～82, 93～110
⑩ その他	P.6, 111～125
★ セミナーのご案内	P.126

一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団

■ 「暑さに対応したまち」 施策検討案



【水辺空間、日よけ、ミスト等の配置（仮称：スマートクールシティ）】 【暑さ対策スマートパッケージ】（まちづくりとデジタルの連動）

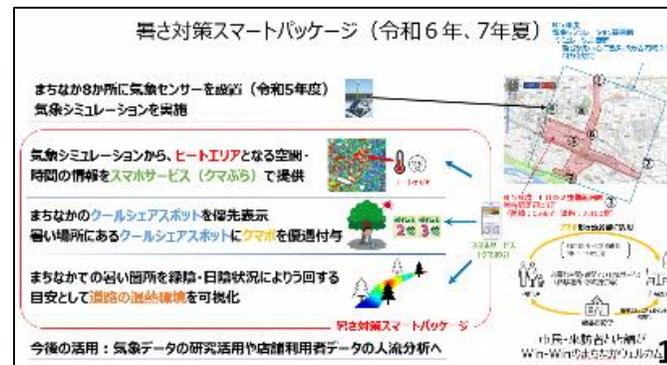
○暑さ対策スマートパッケージに取組みつつ、水辺体験空間、手入れの不要な通風型日よけ（フラクタル日よけ）、ミストなどをまちなか再生と連動して導入。

○熊谷市における具体的取組み

- ・ R4年度星川で水辺体験空間社会実験
- ・ R5年度に通風型日よけの設置シミュレーションに着手予定
- ・ R6年度に立正大学・アーキテクトと連携し、微気候の観測など熊谷の夏を涼しく過ごす「スマートクールシティ」企画に取組み
- ・ R7年度の星溪園へのミスト導入について検討中

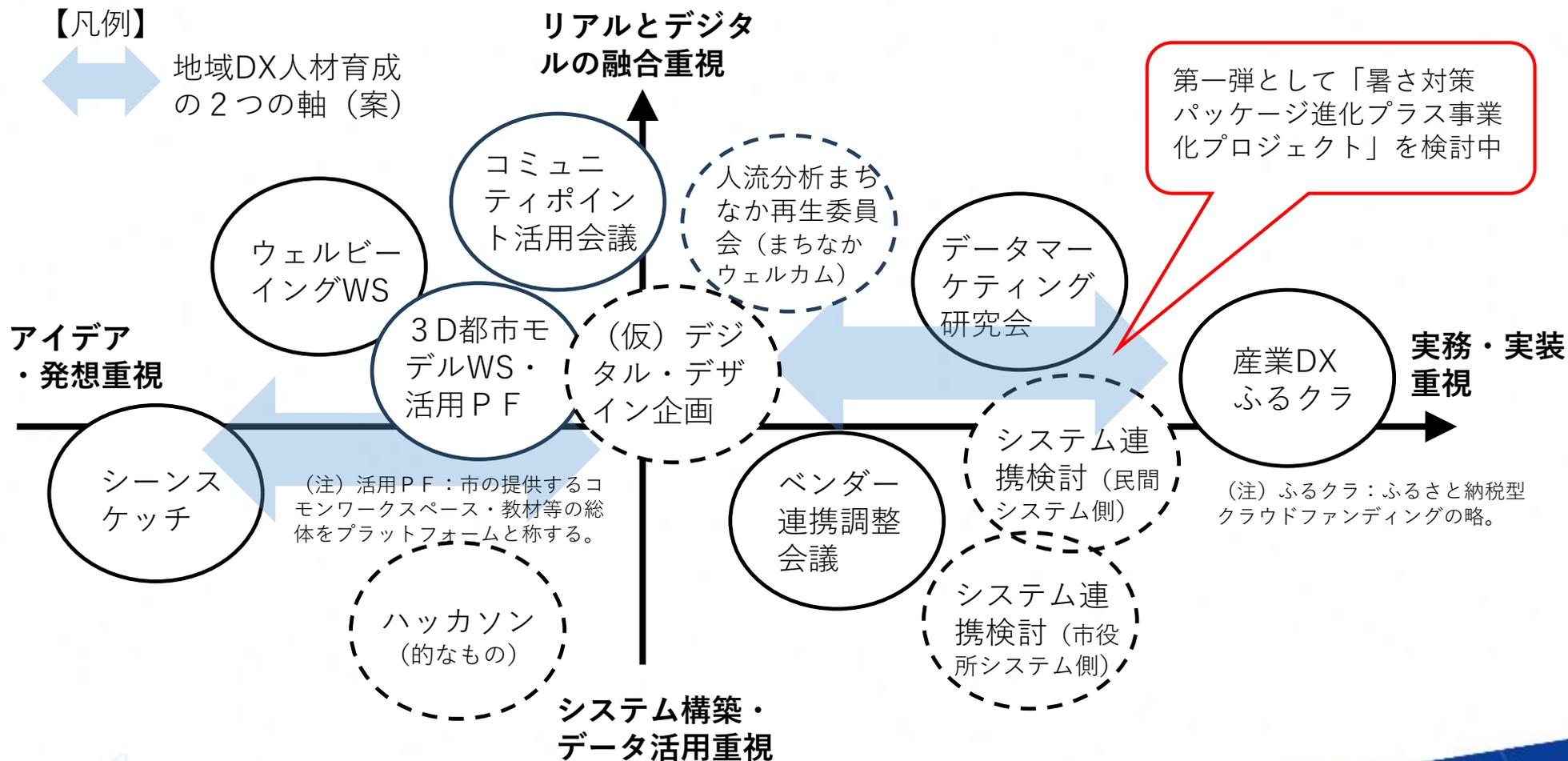
○実装内容（案）

・ WBビジョンとスマートシティ実行計画の双方の記載に基づき、リアルのまちづくりとデジタルの双方の取組みを連携させながら推進



○（参考）R5年度シーンスケッチコンテストSF部門最優秀賞

熊谷スマートシティにおける公民連携の取組概要



ロジックモデルの例

(注) スマートシティインスティテュートがウェルビーイング指標の活用説明で用いた資料から抜粋したものであり、そのまま熊谷市への適用を目指すものではない。

ペルソナ・ロジックツリーで解像度を上げたウェルビーイング因子について、その向上・改善・維持等を目的とした**具体的な政策をデザイン**（政策ロジックモデル）

【政策ロジックモデルの実例（公共空間＋事業創造）】

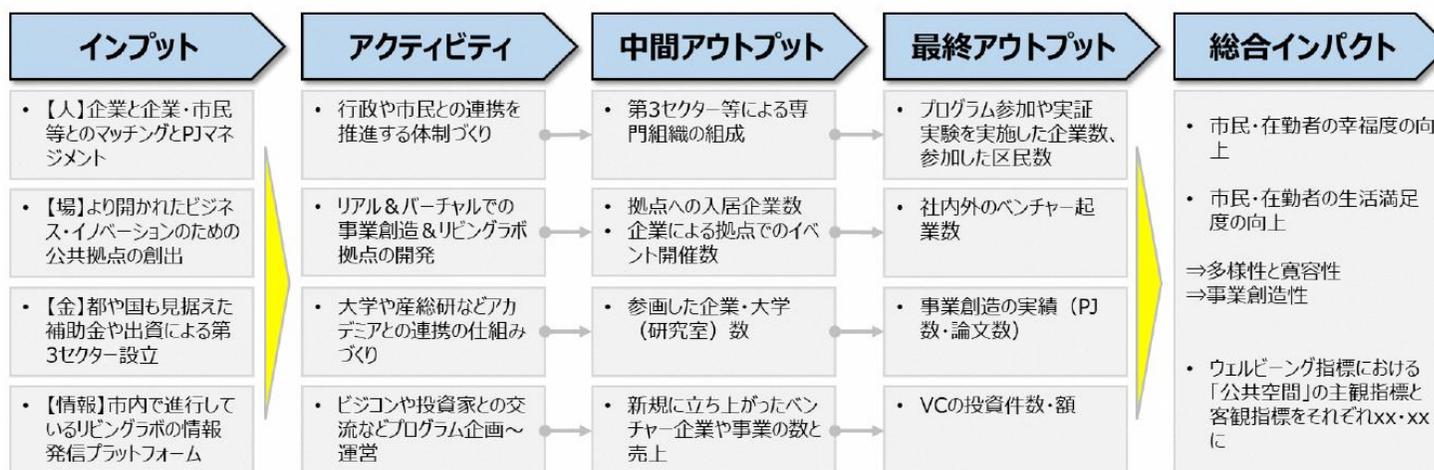
- 先進ビジネスを牽引する多様な民間リソースを、市内の社会関係資本への投資と循環につなげるハード&ソフト・インフラとして整備し、市民&在学在勤者の幸福度向上を目指す

現 状

- ・ オープンイノベーションが叫ばれるものの、実際にはそのような機会や場には縁遠い
- ・ 民間のイノベHUBは金銭面でもハードル高い

将来 像

- ・ ビジネス開発を協働できる企業や市民と、もっと気軽に出会いたい&試したい



■SC分野アンケートとWB重点8項目（ビジョンマップ項目）の関係（検討経緯）

【1】スマートシティ分野に係るアンケート6項目（期待値・自由記述）

- ・モビリティ（交通・移動）
- ・暑さに対応したまち
- ・スポーツ
- ・産業創造
- ・ウェルネス（健康状態）
- ・安心・安全

【2】市民WSに向けて設定した心豊かな暮らしに係る8項目（シナリオ）の案

	LWC因子
1	移動・交通
2	地域行政
3	子育て
4	初等・中等教育
5	防災・防犯 地域とのつながり
6	健康
7	雇用・所得
8	事業創造

市民WS

- 個人アイデア:40
 - ・デジタル：20
 - ・非デジタル：20
- グループアイデア:5

担当課ヒアリング

【3】市民WSのアイデアについて、担当課ヒアリングを実施。サービス・施策案を検討の上、ビジョンマップを下記8つに再分類した。

#	項目
1	モビリティ（交通・移動）
2	暑さに対応したまち
3	安心・安全
4	スポーツ・健康
5	地域とのつながり
6	事業創造
7	子育て
8	学び

担当課アンケートを基にシナリオ作成、担当課レビュー実施。
8つのシナリオは、LWCアンケート、スマートシティ施策を考慮して抽出。

(凡例) 青：自治体DX関連項目として設定

(凡例)

- 緑：スマートシティ分野のうち市民の期待値が高いもの
- 黄：熊谷スマートシティとしての留意事項（暑さ対応の受け皿の可能性も含む）

- #2：暑さに対応したまち
市民WSでは、地域行政が討議対象にあたらなかった経緯も含め、暑さに対応したまちの施策を描くほうが好ましいと考えた
- #3：安心安全
市民WSでは災害時のシミュレーションがアイデアにあり。スマートシティ分野の安心・安全と近いと考えた
- #6：事業創造
市民WSでは、雇用・所得、事業創造は主に農業・ビジネスチャレンジが主だったため、スマートシティ分野の産業DX・産業創造施策と近いと想定
- #8：学び 初等・中等教育に限定しない生涯学習等を含む内容として位置付け

■合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）①

参加することではじめるまちづくり

<https://kakogawa.diycities.jp/?locale=ja>



Decidim（デシディム）は、市民などが意見やアイデアを寄せ、議論し、政策に結びつけていくためにスペイン・バルセロナで生まれたツールです。

加古川市はスマートシティを市民の皆さんと作るため、全国で初めて Decidim を導入しました。

ユーザ登録すれば誰でも参加できます。市民の皆さん、事業者の皆さん、行政でアイデアを出し合って、よりよいまちをつくりましょう。

① ユーザ登録



② 色んなテーマ（課題）に意見やアイデアを自由に投稿



③ 意見に基づき市が施策を検討

④ 施策に反映！



加古川市版Decidim は、みなさんの声を実際の政策に反映させるデジタル・プラットフォームです。

ここで誰もがきもちよく過ごせるよう、ルールを決めています。

- アイデアを出し合う場です。 誰かのアイデアには「いいね」や「こうしたらもっとよくなるよ」と前向きな意見をしましょう！
- 安心して話してもらえるようにしています。 登録には名前が必要ですが公開されません。ニックネームで投稿できます。
- 投稿の前に、「問題ないかな？」と、念のための確認をお勧めします。

※よりよいルール of アイデアも随時募集しています。どしどしご意見をお寄せください。

■合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）②

JR加古川駅周辺のにぎわいづくり（ウォーカブルなまちづくり）

JR加古川駅周辺のにぎわいがあり、皆さんが訪れたい駅周辺にするための気付きやアイデアを出し合いましょ

プロセス

【投票実施中】 アイデア集

アイデアマップ

事務局からのお知らせ

アイデア収集①

アイデア収集②

もっと見る...

「参加型プロセス」では、市側の提案に対して、意見やアイデアを記入することができます。
皆さんと「ともに作る」まちづくりへの意見やアイデアをお寄せください。

加古川駅周辺のまちづくりにおいては、様々なイベント活用を想定した実証実験を開始し、市民、民間事業者の方々と駅周辺のさらなる魅力づくりを進めてきたところです。

そして、令和5年2月に、駅周辺の再整備に向けたまちづくり（案）を公表し、今後、駅周辺の関係者を巻き、様々な検討を進めていく予定です。

アイデア収集フェーズ・アイデア検討フェーズ（オンライン型・ワークショップ型）でいただいたアイデアをさらに深掘りし、皆さんで加古川駅周辺の具体的な未来を創造する議論を行うため、以下の内容について意見を募集します。

- 訪れたい加古川駅周辺とは？
- 駅周辺のウォーカブルなまちづくりとは？

令和5年3月11日（土曜日）に「加古川駅周辺の未来を考えるワークショップ」を開催しました。（当日の様子）

滞在人口・滞在時間を増やすには？

【施設・店舗・設備】

- ・フィットネス施設・公園スペース
- ・大型イベント、マルシェ、オープンカフェ
- ・駅前に美術館、ウォールアート、ギャラリーが点在
- ・映画館やレジャー施設を駅前に集約
- ・屋根-Wi-Fi・充電器・サインage付きベンチ
- ・スポーツバー
- ・ラーメン横丁
- ・駅周辺にホテル

脱炭素につながる取り組みとは？

【施設・店舗・設備】

- ・大きな買い物かご付きの電動レンタサイクル
- ・ロードバイクやクロスバイクのレンタサイクル
- ・駅と大型商業施設にレンタサイクルのスポット
- ・コップ、ストローなどお店で使用する食器を緑色に
- ・店舗や施設を駅前に集約
- ・省エネ家電
- ・駅にレンタル倉庫
- ・缶、ボトルと生ごみの分別ゴミ箱設置
- ・太陽光パネル付きベンチ
- ・人力車で加古川まで（カゴック）
- ・商業ビルの屋上に太陽光パネル
- ・キックボード



【投票実施中】 アイデア集 全ての提案を見る (90)

お母さんが一人で買い物できる場所

🕒 2021年度ワークショップ

お母さんが子どもを預けてゆったり買い物ができるとか、子どもを抱えながらお母さん一人でも買い物できるように広い通路があったりまわりが配慮してくれるようなまちなになったらいいと思います。

【滞在】 空席

作成日時	▲23	フォロー	▼0	■0
2023/03/02				

提案を表示

フリー飲食スペースなどの過ごす場所がほしい

🕒 スマートシティ構想に対する意見 他1名
（続きを参照）

加古川駅前の整った飲食スペースはコロナの影響もあり、数が限られており、多くの生徒は利用することができない。寺家町商店街の一部を改装し、フリー飲食スペースなどの過ごす場所がほしい。寺家町のシャッター通り...

【滞在】 満席・待機・設備

作成日時	▲23	フォロー	▼0	■0
2023/03/02				

提案を表示

脱炭素製品を買うとウェルビーポイント

🕒 加古川東高校・脱炭素まちづくりワークショップ

エコな製品を買うときに市からウェルビーポイントをあけてエコな買い物をもっと進める

【脱炭素】 満席

作成日時	▲22	フォロー	▼0	■0
2023/03/02				

提案を表示

商業ビルの屋上に太陽光パネル

🕒 2021年度ワークショップ

駅前の脱炭素と関係の関わりで、象徴的にも同様に有益では

【脱炭素】 満席・待機・設備

作成日時	▲22	フォロー	▼0	■1
2023/04/22				

提案を表示

すべての提案を見る (90)

合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）③

スマートシティ構想の実施状況

実施状況についてご意見をお寄せください。

アイデア収集
2022/06/10 - 2023/09/30
プロセスのフェーズ

プロセス

【ご意見募集中！】アイデア収集（令和5年度）

フィードバック（令和4年度）

【ご意見募集中！】チャレンジ

もっと見る...

事務局からのお知らせ

市民（アイデア収集）（令和4年度）

「参加型プロセス」では、市側の提案に対して、意見やアイデアを記入することができます。
皆さんと「ともにつくる」まちづくりの意見やアイデアをお寄せください。

皆さんから意見・アイデアをいただき、2021年3月に策定した「加古川市スマートシティ構想」を、策定から約2年が経過した現在の実施状況をオープンに！
未来の加古川市の取組について、皆さんからの意見・アイデアを募集中！

加古川市スマートシティ構想とは？

本市では、ICTの活用により、市民生活の質を高め、市民満足度の向上を図り、「誰もが豊かさを享受でき、幸せを実感できるまち加古川」を実現するため「加古川市スマートシティ構想」を令和3年（2021年）3月に策定しました。市のさまざまな課題について、市民の皆さんと解決する「市民中心の課題解決型スマートシティ」を目指します。

本構想の実進状況

構想策定より約2年が経過し、構想に掲げる17の基本目標を実現するための取組を推進中！
（各基本目標の実進状況は以下に記載のリンクからご確認ください。）

令和4年度 令和5年度

1: 市民のQOLや利便性を向上するサービス
1-1: いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続きの実現
1-2: 誰にでもやさしい窓口環境の実現
1-3: 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信
1-4: 安心して子育てができるまちづくり
1-5: 高齢者にやさしいまちづくり

皆さんから意見・アイデアを募集する期間です。

【アイデア収集】

市民

まち

行政

7個のディベート

以下のフォームは、検索条件が変更されたときに検索結果を自動的にフィルタリングします。

ステータス

 すべて
 公開
 終了

カテゴリ

 すべて
 1: 市民
 2: まち
 3: 行政

作成日時: 2023年06月07日 → 2023年09月30日 23:59

作成日時: 2023年06月13日 → 2023年09月30日 23:59

1-1. いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続きの実現

公式のディベート

■基本方針を実現するための取組（令和4年度に実施したもの）
令和4年5月と9月に、セブン銀行ATMとマイナンバーカードを活用した給付金等の即時受取システムの実証実験を実施。
令和4年7月から、コンビニエンスストアでのマイナンバーカードを使用したワクチン接種証明書の交付を実施。待合や場所を問わず証明書を交付できるようにした。

1: 市民

1-7. 行政情報の見える化

公式のディベート

■基本方針を実現するための取組（令和4年度に実施したもの）
オープンデータカタログサイトで、累計1,865件のデータを公開。
行政情報ダッシュボードで累計34件のデータセットを可視化。
Decidimで市民等の意見を可視化し、施策に反映。令和3年度以前の取組についてはこちら■過去に寄せられた意見アイデア
オープンデータの活用事例の情報共有...

1: 市民

1-3. 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信

公式のディベート

■基本方針を実現するための取組（令和4年度に実施したもの）
令和4年5月から、LINEアプリを活用し、主体的な健康づくりのきっかけとなる「LINEで健康応援！」を実施。
令和4年6月から、費負担・費負担認定申請における介護保険認定審査会の進捗が確認できる「介護保険

1-6. GIGAスクールの推進

公式のディベート

■基本方針を実現するための取組（令和4年度に実施したもの）
令和5年2月に小学校で、プログラミング教育出張授業を実施。
ICTを活用した授業を行うための快適な通信環境として、小中学校の普通教室へ直接光回線及び無線APを導入。
1.1.1台端末を原則1人1台確保によるコミュニケーション

■（仮）「市民共創型3D GIS（三次元地理情報）プラットフォーム」における「コモンワークスペース」の設置

コモンワークスペースは会員となった市民に以下のメリットを提供し、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感いただくと共に、公民連携により「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」などが図られることを目的として熊谷市役所がWeb上でリアースの共有ワークスペースを提供するものです。

○Web上に複数の地図が公表可能

- ・リアースについて、提供元のユーカリヤ社は個人アカウントでの無償体験を提供していますが、その場合、公表できる地図は1件のみとなります。
- ・コモンワークスペースを利用いただくことにより、複数の地図を比較しながらの議論等も容易になります。

○他のコモンスペース参加者との連携が容易

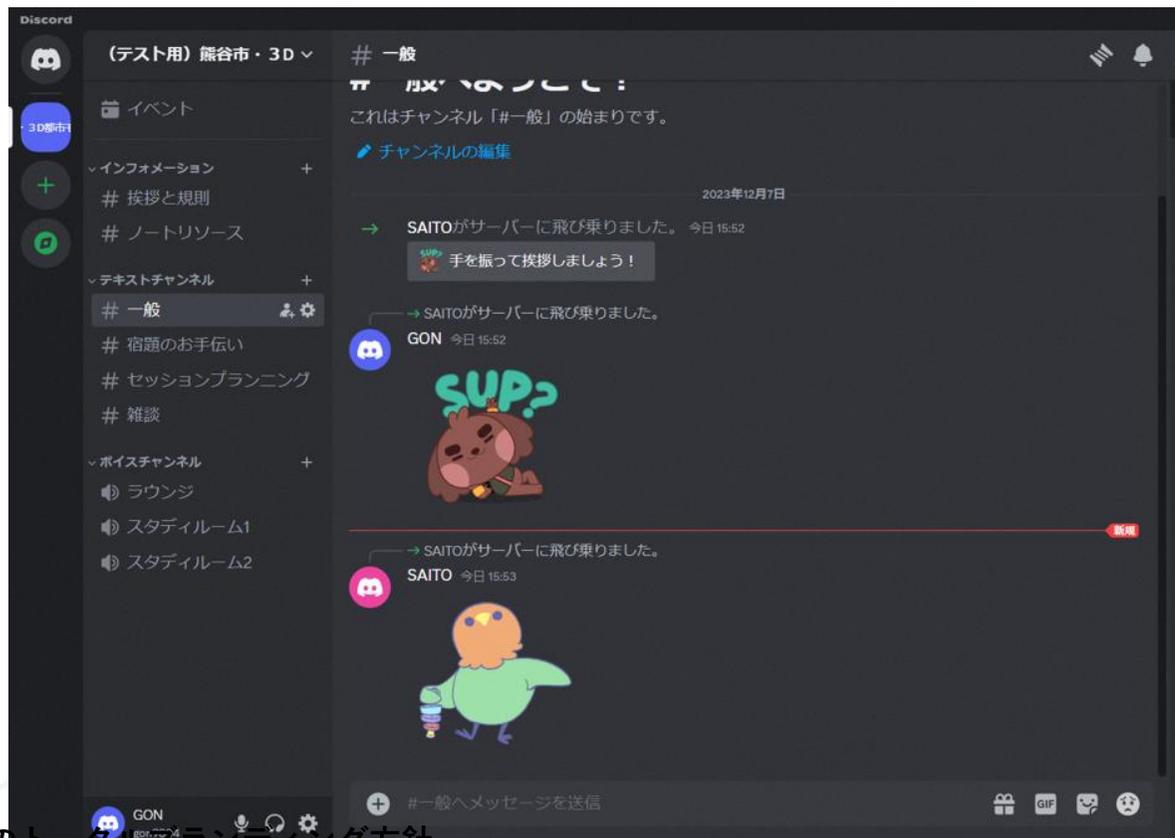
- ・参加者は、他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただいています。逆に、合意があれば、共同で地図の加工に当たっていただけます。
- ・匿名でも活動することは可能ですが、氏名・メールアドレスを市役所に登録いただき、規約に従っていただけない場合は退会する措置を取りますので、安心して活動していただくことが可能です。

- ・参加者同士のコミュニティとしては、Discordにおいて、招待制のサーバーを設置することを検討中です。

■チャットアプリ（Discord）の画面の例）

Slackとの大きな差異として、個人のメールアドレスが表示されず、メンバー相互の連絡は、掲示板に書き込むか、アプリを通じてダイレクトメッセージを送る方法に限られている点が挙げられる。

このような一種の匿名性によって、**知り合いでない方とも安心感をもって活発な意見交換が可能**であるとみられ、熊谷市がWebGISに関して提供するコモンワークスペースのコミュニティや、シーンスケッチの先のリビングラボ的なWeb空間として用意したい、Webコミュニティラボでの活用を検討中。



■コミュニティポイントの活用に向けたマッチングアプリの活用（検討中）

市民相互の「わたくし」機能の活用促進に向け、「して欲しいこと」「できること」を共有できる民間Webシステムとの連携試行を検討中。

Lincrow サービス概要

色んな人の「できる」と「もとむ」を可視化



自身のスキルではなく、やりたいことや悩みなどを気軽に登録出来る

サービスは無料で利用可能！お礼もお金に限らず物物交換が可能！

Lincrow

Lincrow このサービスで解決したいこと

- 自分は何がしたいのか、何ができるのかに気付く

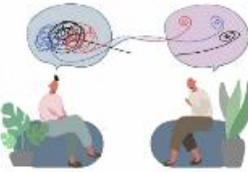
「自分自身の小さな出来ることに価値がある」に気づく機会、そして実際の行動に移せる機会を提供します。

自分自身が自己決定し行動できることは、所得や学歴よりも高い幸福度に繋がります。



- 「頼られないから、頼めない」投げ先のない悩みも言える

家族や会社に依存度が高い時には気づき手を差し伸べられていた問題も、個人が孤立すると気付くことが難しくなります。時に問題を抱えた当人も気づかず言葉に出来ない悩みを抱えていることも。悩みを共有し合うことも解決につながります。



小さな行動が、互いに助け合い、価値を生み出す共助・共創し合う世界へ